

平成 21 年 度

# ビジネス創造センター 研究活動 報告書

平成22年6月

国立大学法人

小 樽 商 科 大 学

ビ ジ ネ ス 創 造 セ ン タ ー

## 発刊によせて

ビジネス創造センター（CBC）  
センター長・教授 海老名 誠

国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センターの平成 21 年度・活動報告書を刊行するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

ビジネス創造センター（Center for Business Creation, CBC）は平成 11 年 4 月に開設され、平成 21 年度に設立 11 年を経過しました。CBC は、多くの大学では地域共同研究センターと呼ばれる施設です。またほとんどの地域共同研究センターが、昭和 62 年以降、理工系国立大学に順次設立されてきたなか、本学の CBC は、社会科学系の大学として全国で最初に設置されました。

本学は、全国唯一の国立商科系単科大学として、その研究成果を活用した社会貢献および地域連携活動に努めています。具体的には CBC を中心とした産学官連携活動を通じて、地域経済の活性化と発展に寄与すべく取り組んでいます。また、CBC とビジネススクールが連携して、実践的且つ想像力にあふれた人材の育成に取り組んでいます。米国発の金融危機が瞬く間に日本の地方経済にまで影響を及ぼすグローバル化の時代にあって、北海道及び小樽の課題を検討し、地域経済をいかに活性化していくかという方策を提言・実行する事が、本学ならびに CBC に課せられた使命であります。

このような認識のもと、CBC は地元小樽市をはじめとする北海道の産学官連携事業に積極的に関与して参りました。平成 20 年度には、小樽市との包括連携協定に基づき、学生が主役となって地域の課題解決を目指す取り組みを始めました。さらに、従来から進めております共同研究や受託研究、研究会活動を通じた産学官連携活動についても、地域社会に貢献する成果を生み出すべく努力を続けています。

また、大学間の連携協定を締結している国立大学法人室蘭工業大学、北海道公立大学法人札幌医科大学、東海大学、北海道薬科大学とは、それぞれの分野における具体的な連携の効果が徐々にかたちとなってきつつあります。

本報告書は、平成 21 年度の活動をご紹介しますものです。ご一読いただき、皆様のご理解とご鞭撻、ご指導を賜りますれば幸いです。

平成 22 年 6 月



## 国立大学法人 小樽商科大学 産学官連携ポリシー

小樽商科大学は、全国唯一の国立商科系の単科大学として、自由な学風を尊び、優れた教育と研究並びにそれらの成果を活用した社会貢献を使命とし、地域社会および国際社会の付託に幅広く応える「知の創造」に努め、人類社会の福祉と発展に寄与します。

産学官連携は、大学の知の成果を社会へ還元する重要な活動であり、本学は高い透明性と公平性をもって積極的に取り組みます。

そのために、小樽商科大学は次のことを表明します。

1. 実学実践の伝統と理念のもと、本学の知的資源をもって社会の各主体と連帯し、知の成果を社会に還元し、豊かで活力溢れるわが国社会の発展と国際社会への貢献を行います。
2. 産学官連携活動を通じて、地域経済の活性化と発展、並びにそれらの担い手となる実践的かつ創造性に溢れた人材育成に取り組みます。
3. 文理融合型の社会連携課題に取り組み、新産業の創出と事業のイノベーションに寄与します。
4. 産学官連携活動を積極的かつ持続的に推進する組織を設け、能力ある適切な人材を配置し、社会に貢献する知の創造に努めます。
5. 産学官連携活動は高い透明性と公平性をもって取組み、十分な説明責任を果たします。

## 目 次

発刊によせて

### 国立大学法人小樽商科大学産学官連携ポリシー

|      |                                           |    |
|------|-------------------------------------------|----|
| I.   | ビジネス創造センター概要                              |    |
| 1.   | 平成21年度の活動：概説                              | 1  |
| 2.   | 主要事業分野                                    | 3  |
| 3.   | 組織                                        | 4  |
| II.  | セミナー等開催報告                                 |    |
| 1.   | 「北洋銀行ものづくりテクノフェア2009」出展                   | 7  |
| 2.   | 金融問題シンポジウム・第5回3大学・地域共同研究センター定期情報交換会（於：福島） | 7  |
| 3.   | 商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト成果報告会           | 9  |
| 4.   | ほっけ料理フェアin雪あかり                            | 10 |
| 5.   | 平成21年度小樽商科大学ビジネス創造センター産学官連携研究成果報告会        | 11 |
| III. | 受託研究・受託事業・共同研究 受入実績一覧                     | 13 |
| IV.  | 研究活動                                      |    |
| 1.   | 登録研究会の活動                                  | 17 |
| 2.   | Discussion Paper Series                   | 27 |
| 3.   | 研究成果，各種メディアへの寄稿および講演                      | 31 |
| 4.   | 学外委員等                                     | 43 |
| V.   | 小樽商科大学 学術研究奨励事業 第4回「学生論文賞」                | 49 |
| VI.  | ビジネス創造センター活動日誌                            | 55 |
| VII. | ビジネス創造センター関連新聞・雑誌記事                       | 59 |

## I. ビジネス創造センター概要

### I-1. 平成 21 年度の活動：概説

ビジネス創造センター（CBC）

センター長 海老名 誠

本研究活動報告書では、CBC の平成 21 年度の活動内容および実績についてご紹介いたします。CBC の運営活動にあたった教員や学外協力スタッフ等の状況は「I-2. 主要事業分野」および「I-3. 組織」のとおりです。

本邦の産学官連携活動は、政府の「科学技術振興政策」方針に則り、バイオ・IT・医療技術・創薬・ものづくりなどの分野に特化しつつあると言っても過言ではありません。大学発ベンチャーも、大半が自然科学系の研究から誕生しています。しかし、自然科学系の研究から発芽するシーズを掘り起こして世に送り出し、大きく健全に育て、その果実を適性に社会に還元させる仕組みを構築する上で、社会科学的知見が不可欠であることは言うまでもありません。社会科学系大学の地域共同研究センターである本学 CBC は、北海道・小樽地域を軸足にしてその重要な役割を担うべく、自然科学系大学との連携を深め新しいビジネスの創出に尽力しております。具体的には、マーケティングや市場調査・フィールド調査などを通じた地元の中小企業や公的機関に対する貢献が一例です。平成 21 年度も地元小樽の商工会議所と連携した海外市場調査をはじめとした北海道の産学官連携活動に積極的に取り組みました。

近年、産学官連携の現場では「人材育成」の重要性が叫ばれています。さまざまな新しい研究成果と市場や社会とを結びつけ新しい価値を創造する役割を担ってきた CBC は、コーディネーター人材の育成に関して多くのノウハウを蓄積しております。平成 19 年度末に調印された小樽市と本学の包括連携協定に基づいて、平成 20 年 4 月より小樽市職員 1 名を地域連携推進コーディネーターとして常勤配置し、小樽地域を中心とした地域連携を一層推進するとともに、大学と地域の連携活動のつなぎ役となる人材の育成にも注力いたしました。

人的貢献という側面からは、公的機関などが組成する各種委員会への参画も、本学の社会貢献活動として重要な位置づけであります。本学教員は各種委員会・審議会へ幅広く参加しておりますが、特に本センターに関係する教員は、今後も引き続き公的活動に積極的に関与して参ります。

平成 21 年度は、本学の活動を広く市民にお伝えしご理解・ご支援いただくための情報

発信も積極的に行いました。一般市民を対象にした地域活性化セミナーを 11 月に開催し、大学と地域の連携に対する理解を深めていただきました。また商工会議所の会報にコラム「ビジネス・ワンポイント」の紙面をいただき、関係教員が持ち回りで各専門分野のトピックや考え方を毎号に寄稿しました。

本学が所在する小樽は、多くの地方都市の例外にもれず年々常住人口が減少しており、市の財政状況も大変厳しいものとなっております。その中で小樽市は平成 20 年 10 月に観光都市宣言をし、観光関連産業による地域の活性化を図っております。金融危機の影響による景気後退を受け、小樽を訪れる観光客も減少しておりますが、一方中国をはじめとするアジアからの観光客は増加傾向にあります。本学は小樽をアジアにおける国際観光都市として確立するために、今後もさまざまな活動を通じて支援・貢献して参りたいと考えております。

## I-2. 主要事業分野

### ● プロジェクト事業

ビジネスのシーズとニーズを結びつけ、新事業の可能性を切り開きます。国立大学ならではのネットワークをフルに活用し、ビジネス創造に不可欠な学内外の専門家や諸機関を有機的に結び合わせた個別調査研究プロジェクトを立ち上げます。これにより道内、さらには国内外から持ち込まれるさまざまなビジネスシーズをビジネスニーズへと展開させることに貢献します。

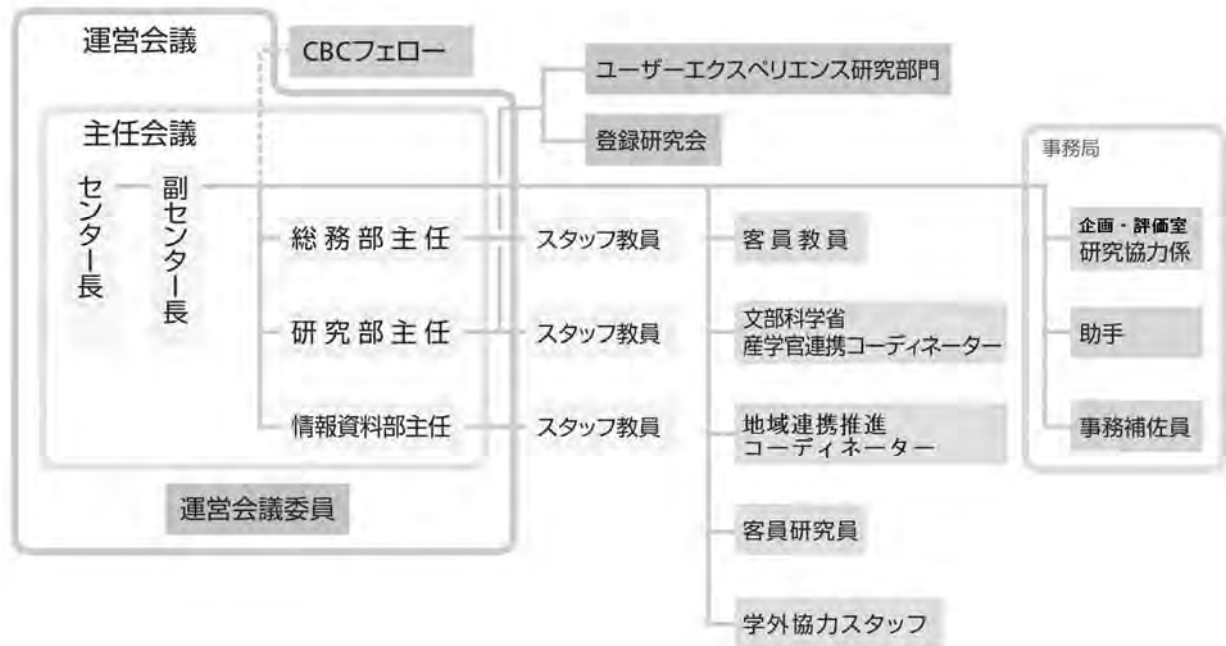
### ● 情報発信事業

実学実践1世紀のデータベースから、北のビジネスシーンに有益な情報を発信します。建学以来およそ100年にわたり収集してきた北方圏資料に加えて、ビジネス創造に関する各種情報のデータベースを構築し、インターネットや各種セミナー等を通じて積極的に情報公開を図り、地域と大学を緊密に結びつけます。

### ● 高度職業人育成事業

新時代の多様で高度なビジネスに、必要十分に対応できる人材を育成しています。客員研究員や客員スタッフを、民間企業や自治体などから常勤・非常勤を問わず幅広く受け入れるほか、本学大学院に在籍する多数の現役社会人や留学生に、C B Cの各種活動に参加することでビジネスプロフェッショナルへと向かう実践的環境を提供します。

### I-3. 組織(平成22年3月31日現在)



センター長・・・・・・・・・・ 海老名 誠 (ビジネス創造センター・教授)

副センター長・・・・・・・・・・ 大津 晶 (社会情報学科・准教授)

総務部・・・主任 田中 幹大 (商学科・准教授)

スタッフ 中村 秀雄 (アントレ専攻\*・教授)

研究部・・・主任 近藤 公彦 (アントレ専攻\*・教授)

スタッフ 齋藤 一朗 (アントレ専攻\*・教授)

スタッフ 加賀田 和弘 (商学科・准教授)

スタッフ 堺 昌彦 (アントレ専攻\*・准教授)

情報資料部・主任 木村 泰知 (社会情報学科・准教授)

スタッフ 平沢 尚毅 (社会情報学科・准教授)

フェロー・・・・・・・・・・ 奥田 和重 (副学長／アントレ専攻\*・教授)

瀬戸 篤 (アントレ専攻\*・教授)

運営委員・・・【経済】 鶴沢 秀 (教授)

【商学】 高田 聡 (教授)

【企業法】 河野 憲一郎 (准教授)

【社会情報】 行方 常幸 (教授)

【一般教育等】 八木 宏樹 (教授)

【言語】 裴 崢 (教授)

【アントレ専攻\*】 玉井 健一 (准教授)

\*「アントレ専攻」は「大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻」の略

ユーザーエクスペリエンス研究部門

部門長 平沢 尚毅 (社会情報学科・教授)

学術研究員 尾形 慎哉 桶谷 利幸 葛西 秀昭 黒田 秀樹

山田 (河合) 菊子

事務補佐員 浅村 次美



文部科学省産学官連携コーディネーター・・・佐藤 準（客員研究員）  
 地域連携推進コーディネーター・・・富樫 誠  
 事務局（企画・評価室）・・・蔵重 治（研究協力係長）  
 助手・・・・・・・・今野 茂代  
 事務補佐員・・・田中 志帆

#### 学外協力スタッフ平成 21 年度登録メンバー

（氏名五十音順，所属・職位は平成 21 年 3 月 31 日現在）

|        |                                            |
|--------|--------------------------------------------|
| 遠藤 正 氏 | 財団法人北海道科学技術総合振興センター次長                      |
| 大石 一良氏 | あずさ監査法人 札幌事務所 代表社員                         |
| 小寺 正史氏 | 弁護士法人小寺・松田法律事務所 所長                         |
| 小室 雄次氏 | OFFICE KOM 株式会社 代表取締役                      |
| 佐藤 等 氏 | 佐藤等公認会計士事務所 所長                             |
| 土井 尚人氏 | 株式会社ヒューマン・キャピタル・マネジメント代表取締役社長              |
| 土門 亨 氏 | オフィス ITM 代表                                |
| 服部 統幾氏 | 日本政策投資銀行投資統括部課長                            |
| 松田 博行氏 | 千代田アドバンスト・ソリューションズ株式会社取締役事業副統括兼 PLE 技術研究所長 |
| 三浦 淳一氏 | 北海道ベンチャーキャピタル株式会社取締役企画室長                   |
| 溝渕 新蔵氏 | LEC 東京リーガルマインド大学客員教授／アクティビビジネスコンサル代表       |
| 守内 哲也氏 | 北海道大学遺伝子病制御研究所教授                           |
| 吉本 平史氏 | 独立行政法人中小企業基盤整備機構プロジェクトマネージャー／A. Archive 代表 |

#### 学外協力スタッフ—CBC Advisory Staff—とは

ビジネス創造センターの事業領域には，とくにビジネス創造のアドバイスやコーディネート活動に関する学外専門家（弁護士，会計士，弁理士，技術士等）による協力と助言が欠かせません。学外協力スタッフ制度は，公的な場での使用も想定した名称であり，学長から委嘱状を発行して学外からの協力を得るものです。

##### ・登録資格

小樽商科大学卒業生で，ビジネス実務者もしくは経験者。  
 弁護士，司法書士，公認会計士，税理士，弁理士，行政書士，中小企業診断士，技術士，医師等のいずれかの資格・免許を保有する者。  
 その他，特別にセンター長，副センター長，および各部主任の推薦を得た者。

## Ⅱ．イベント・セミナー等開催報告

### Ⅱ－１．「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2009」

8月21日（金）「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2009」（於：札幌コンベンションセンター）に出展しました。このフェアは「優れた技術や製品を有する中小企業，大学，支援機関等が一堂に会する場を提供し，販路拡大や企業間連携の促進，情報交換や技術交流等を通じて，北海道のものづくり産業の振興を図る。」（開催概要より）ものです。約140の企業・団体・大学等の出展があり，来場者は約3,000人でした。

ビジネス創造センターでは，リアルな情報をバーチャルで提供する双方向型地域情報サービス i-vacs（近藤ゼミ運営）のほか，ビジネス創造センターの取組みについて紹介しました。

ブースでは近藤研究部主任，海老名センター長，大津副センター長，i-vacs を運営する学生2名らが来場者に説明を行いました。来場者からは，さまざま質問，提言などが寄せられました。



### Ⅱ－２．金融問題シンポジウム・

#### 第5回3大学・地域共同研究センター定期情報交換会（於：福島）

##### 「金融問題シンポジウム」

平成21年9月12日（土）13：30～17：00 ふくしま中町会館7階大会議室  
福島大学・滋賀大学の地域共同研究センターとの共催。

地域の身近な問題を取り上げ，各センターの研究成果を広く紹介するのが目的で，三大学共同によるシンポジウム開催は，昨年の小樽に続き2回目になります。

今回は「地域社会における金融機関の社会的役割について」をテーマとして，講演・パネルディスカッションが行われました。

地元金融機関から 3 名の講師を招き、それぞれ 30 分程度の講演がなされました。豊田猛夫氏（日本銀行福島支店長）は、地元金融機関は金融仲介機能を強化する必要があると述べ、これを受けて北村清士氏（東邦銀行取締役頭取）は、地元金融機関として地域密着型金融を推進し、企業のライフサイクルに応じた支援を重視したいと述べました。

続く黒澤勇氏（福島信用金庫理事長）も、協同組織金融機関として中小企業の金融支援、地域の活性化支援を積極的に行うと述べるなど、業種を超えた地域金融のあり方について問題提起をしました。

パネルディスカッションには、CBC 研究部スタッフである齋藤一朗教授（商学研究科アントレプレナーシップ専攻）がコメンテーターとして参加、伝統的な預貸業務にベースに置きながらも、金融ビジネスモデルを再考する必要があると述べました。さらに、金融問題は人づくりの問題であり、実物経済を支える人材育成が必要であると述べ、会場から活発な意見を引き出すきっかけとなりました。

齋藤教授は最後に、地域金融機関は取引関係を通してコミュニティを結節する位置にある。その意味では、地域経済において人づくりの風土を創り出す先導役を担っているという認識が必要と締めくくり、会場から大きな拍手を受けていました。



### 第 5 回 3 大学・地域共同研究センター定期情報交換会

平成 21 年 9 月 12 日（土）9：00～12：00 ふくしま中町会館 6 階特別会議室

福島大学・滋賀大学・小樽商科大学の地域共同研究センター相互の情報交換を目的として、各センターが持ち回りで開催しており、今回で 5 回目を数えています。

各センターが最近の活動について発表し、意見交換と情報共有を行うもので、CBC からは副センター長の大津准教授（商学部社会情報学科）が、「地域連携キャリア開発（通称マジプロ）」の取り組みについて発表しました。

学生のキャリア教育の一環ながら、学生が地域で活動することで、これを応援する市民との交流の場が生まれ、地域から協力が得やすくなるなど、地域活性化の好循環が生まれつつあると紹介しました（活動の詳細は今号の別記事を参照のこと）。

他大学からは「学生の移動にかかる経費はどう捻出しているのか？」など、より踏み込んだ内容の質問もあり、この取り組みに関する関心の高さが感じられました。

他にも、滋賀大学産業共同研究センターの野本センター長からは、中小企業向けの出前 MOT 活動について、同センターの山本客員教授からは、地域資源である綿織物を活用した「地域ブランド創出プロジェクト」について、同センターの山崎教授からは、「公共経営イブニングスクール」

「地域活性化プランナーの学び直し塾」について、それぞれ発表がありました。

福島大学地域創造支援センターの丹治副センター長からは、12 金融機関や 9 市町村との連携協定や、同センターと生涯学習センターとの統合について、今井地域連携グループリーダーからは、県内に 5 ヶ所あるサテライトの現状について、それぞれ発表がありました。

両センターの特色ある取り組みは、今後の活動の参考にしたいと考えています。



## Ⅱ－３．商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト成果報告会

ビジネス創造センター（CBC）が活動を支援する「平成 21 年度商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト（マジプロ 2009）」の成果報告会が、11 月 1 日（日）に運河プラザ 3 番庫で開催されました。この報告会は、平成 21 年度から開講されている本学のキャリア教育科目「地域連携キャリア開発」の最終発表会を兼ねており、ビジネス創造センター主催の平成 21 年度地域活性化セミナーとの共催でもあります。

会場には、50 人程度の市民が集まり、学生の活動を分かりやすく展示したポスターの前で直接学生たちと議論したり、まちなか活性化に取り組んだ 3 チームそれぞれのテーブルで催されたワークショップに参加して、活発に意見を交えたりする姿が多く見られました。

また当日の参加者には、グランドパーク小樽さまと閑花月堂さまのご協力により、「ホッケのコロッケ」と「豆乳プリン」の試食品が提供され、学生の発案と地域の企業の協力が目に見える具体的なかたちとなり報告会に華を添えました。

今年度のマジプロの成果報告会は、つぎの 2 つの点で昨年度と大きく異なっています。まず、昨年度のマジプロの参加メンバーが、最初から最後まで報告会の企画・運営を取り仕切ったことです。昨年度のメンバーのうち 12 名が、報告会だけでなくプロジェクト開始から今年度のメンバーのサポート役となって各チームの活動を支援し、今年の 20 名の大きな力になっただけでなく、後輩たちのサポートとプロジェクトの運営に携わることで、本事業の趣旨や学生が主役となった地域連携の意義についてより理解が深まったようです。

もう一点は、報告会の進行方法に一方的なプレゼンテーション形式ではなく、市民参加型のポスターセッション／ワークショップ形式を採用したことです。これは、「もっと学生さんと意見交換をしたかった」という昨年の参加者の声を反映させたもので、実際に発表する学生にとっても、当日どんなコメントが飛び出すか分からない緊張感と、学生よりもむしろ熱い市民の本気を感じることができた意義深い企画でした。

日 時： 11月1日（日） 14時～17時（開場 13時半）

場 所： 小樽運河プラザ三番庫（色内 2-1-20）

参加費等：無料・事前登録不要・入退場自由

次 第：

（1）「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト」実施概要報告

（2）実践課題班によるポスターセッション

・小樽ご当地グルメの開発      ・小樽スイーツの開発      ・小樽物産ネットショップの広報戦略

（3）新規課題（まちなか活性化）班によるワークショップ

・手宮を中心としたフットパスの提案について      ・小樽の商店街でのイベント提案について

・小樽への学生移住計画について

（4）試食・デモ

（5）まとめ・意見交換



ワークショップ



ホッケのコロッケ、豆乳プリン試食

## Ⅱ－４．ほっけ料理フェア in 雪あかり

2月5日（金）から14日（日）まで「第12回小樽雪あかりの路」に併せて「ほっけ料理フェア in 雪あかり」（主催：ほっけ料理フェア実行委員会）が開催されました。ビジネス創造センターはシーネット小樽機船有限責任事業組合からの受託事業として、実行委員会に参加、事務局機能を担いました。

このフェアは「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト」から生まれたご当地グルメ・ホッケのコロッケのアイデアがきっかけで、「小樽の地場産品ほっけを使った料理で、地域経済を活性化させたい」と開催されることとなったものです。



期間中は、市内 14 店舗がオリジナルのほっけ料理を提供。新聞、テレビなどメディアにも多く取り上げられ、好評を博しました。

## Ⅱ－５．平成 21 年度

### 小樽商科大学ビジネス創造センター産学官連携研究成果報告会

2 月 26 日（金）、札幌サテライト大講義室にて「平成 21 年度小樽商科大学ビジネス創造センター（C B C）産学官連携研究成果報告会」を開催しました。今回の報告会は、ユーザーエクスペリエンス研究部門についてと Web 上での地方議員マッチングシステムについての 2 本の報告でした。

出席者は約 30 名で、「ユーザビリティに関する認識が深まった」、「マッチングシステムは自宅でも見てみたい」といった意見が寄せられました。

プログラムは以下のとおりです。

報告会の内容は以下のとおりです。

13:00 受付開始

13:30 ご挨拶 小樽商科大学ビジネス創造センター長 教授 海老名 誠

13:40 第 1 報告 「人間中心設計にもとづく開発プロセスに関する研究」

講師：平沢 尚毅（小樽商科大学社会情報学科教授

／ビジネス創造センターユーザーエクスペリエンス研究部門長）

尾形 慎哉（ビジネス創造センター

ユーザーエクスペリエンス研究部門学術研究員）

14:20 質疑応答

14:30 （休 憩）

14:40 第 2 報告 「地方議員マッチングシステムの紹介」

講師：木村 泰知（小樽商科大学社会情報学科准教授

／ビジネス創造センター情報資料部主任）

15:20 質疑応答

15:30 閉会

#### 「人間中心設計にもとづく開発プロセスに関する研究」

・「人間中心設計」とは、使用者の立場や視点に立って商品等の設計を行うこと。ユーザーエクスペリエンス研究部門でユーザビリティ・ラボなどを活用しながら実際に行われた開発プロセスについて報告が行われました。

### 「地方議員マッチングシステムの紹介」

・「地方議員マッチングシステム」とは、Web を利用して住民の関心にあわせた地方議会議員の情報を提示するシステムです。小樽市の市議会議事録から抽出された情報を事例にとりながらシステム利用の具体例などが報告されました。



海老名センター長



平沢教授



尾形研究員



木村准教授と大津副センター長

### Ⅲ. 平成21年度受託研究・受託事業・共同研究 受入実績一覧

#### Ⅲ－1. 受託研究

| 委 託 者           | 研 究 題 目                                          | 研究期間                                         | 研究者所属・職・氏名 |     |       | 研究経費(円)                                                        |
|-----------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------|-----|-------|----------------------------------------------------------------|
| 製造業             | ユーザインターフェース設計方法論に関する研究<br>(平成21年3月31日変更契約)       | 20.7.4<br>～<br><del>21.3.31</del><br>22.3.31 | 社会情報       | 教授  | 平沢 尚毅 | 999,999<br>(注1)<br>1,999,998<br>(直接経費<br>769,230<br>1,538,460) |
| 総務省北海道<br>総合通信局 | 地域ICT振興型研究プロジェクト<br>北海道における地方議員と住民間協働支援システムの研究開発 | 21.4.1<br>～<br>22.3.31                       | 社会情報       | 准教授 | 木村 泰知 | 3,900,000<br>(直接経費<br>3,000,000)                               |
| 製造業             | 非公開                                              | 21.12<br>～<br>23.3.31                        | 社会情報       | 教授  | 平沢 尚毅 | 19,963,125<br>(消費税込)<br>(直接経費<br>15,356,250<br>消費税込)           |
| 合 計 3 件         |                                                  |                                              |            |     |       | 25,863,123                                                     |

※注1 原契約 769,230円 (間接経費 230,769円 合計額 999,999円)  
 増額する直接経費 769,230円 (間接経費 230,769円 合計額 999,999円)  
 原契約と変更契約を合計した研究経費 1,999,998円



### Ⅲ－2. 受託事業

| 委 託 者               | 委 託 事 業 名                                                           | 委託期間                         | 業務担当代表者所属・職・氏名 |       |                                       | 事業経費(円)   |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------|----------------|-------|---------------------------------------|-----------|
| 製造業                 | 人間中心設計に関する技術支援事業                                                    | 21. 10. 19<br>～<br>22. 3. 31 | 社会情報学科         | 教授    | 平沢 尚毅<br>(ビジネス創造センターユーザーエクスペリエンス研究部門) | 579,880   |
| 財団法人北海道科学技術総合振興センター | 多様化するライフスタイルに対応した壁散水栓の開発事業                                          | ～<br>22. 3. 31               | 社会情報学科         | 教授    | 平沢 尚毅<br>(ビジネス創造センターユーザーエクスペリエンス研究部門) | 150,000   |
| シーネット小樽機船有限責任事業組合   | 新マーケット創出事業                                                          | 21. 12. 25<br>～<br>22. 3. 31 | C B C          | センター長 | 海老名 誠                                 | 250,000   |
| 情報・システム研究機構         | 学術機関リポジトリの構築とコンテンツの拡充(図書館契約)                                        | 21. 7. 1<br>～<br>22. 2. 28   | 附属図書館          | 館長    | 和田 健夫                                 | 2,500,000 |
| 情報・システム研究機構         | 学術情報資源共有のための図書館文献デリバリーサービスを機関リポジトリ構築によって代替するための教員・図書館連携方式の開発(図書館契約) | 21. 7. 1<br>～<br>22. 2. 28   | 附属図書館          | 館長    | 和田 健夫                                 | 1,800,000 |
| 合 計 5 件<br>(新規のみ)   |                                                                     |                              |                |       |                                       | 5,279,880 |

### Ⅲ－3. 共同研究

| 共同研究先         | 研 究 題 目                                              | 研究期間                                                | 研究者所属・職・氏名    |          |               | 研究経費(円)                                         |
|---------------|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|---------------|----------|---------------|-------------------------------------------------|
| 株式会社北洋銀行      | 北海道における国際取引推進の研究<br>(平成19年度からの継続)<br>(21年3月5日付け変更契約) | 20. 3. 28<br>～<br><del>21. 3. 31</del><br>22. 3. 31 | 商学研究          | 教授       | 中村 秀雄         | (1, 000, 000)                                   |
| 生活協同組合コープさっぽろ | 道内小売業の市場構造と小売り戦略に関する研究                               | 20. 10. 31<br>～<br>22. 9. 30                        | 商学研究<br>商学研究  | 教授<br>教授 | 李 濟民<br>中村 秀雄 | (2, 000, 000)<br>(計画全体<br>3 カ年で<br>8, 000, 000) |
| 株式会社ユーザデザインラボ | ユーザビリティソリューション研究                                     | 21. 6 .10<br>～<br>22. 3. 31                         | 社会情報          | 教授       | 平沢 尚毅         | 100, 000                                        |
| 株式会社ポイントプラス   | POSデータによるチラシ広告効果の研究                                  | 21. 8 .21<br>～<br>22. 3. 31                         | アントレプレナーシップ専攻 | 教授<br>教授 | 近藤 公彦<br>出川 淳 | 550, 000                                        |
| 株式会社ニュートン     | e ラーニング英語教材開発プロジェクト                                  | ～<br>22. 3. 31                                      | 言語センター        | 教授       | 吉田 直希         | 210, 000                                        |
| 合計 5件         |                                                      |                                                     |               |          |               | 860, 000<br>(新規のみ)                              |

## IV. 研究活動

### IV-1. 登録研究会の活動

ビジネス創造センターに登録している研究組織の平成 21 年度における活動状況は以下のとおりです（五十音順）。

#### ICT 研究会

1. 代表幹事名：奥田 和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
「北海道（地域）あるいは企業の情報化に関わる課題の解決を図りながら I C T（情報通信技術：Information-Communication Technology）による社会・経済的価値の創造を考える」ことを目的としています。本研究会の活動は、具体的には以下の課題を中心に議論を行い解決の可能性を検討することです。
  1. 北海道（地域）の情報インフラの整備と地域経済の活性化
  2. 企業とマーケット（顧客）、企業と企業、企業内における情報化
  3. 情報教育と人材育成

#### 遠隔教育研究会

1. 代表幹事名：奥田 和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
遠隔教育の経済性評価に関する実証研究を行う。自治体の教育委員会や小・中学校と連携して遠隔教育システムを構築し、その経済性を評価するとともに、教育心理学の視点からシステムの有効性を評価する。

#### 小樽運河観光船プロジェクト研究会

1. 代表幹事名：海老名 誠（ビジネス創造センター長・教授）
2. 目的・内容：  
小樽運河は小樽のもっとも重要な観光資源であると同時に、小樽市民にとっての宝とも言うべき特別な資産です。この運河を小樽の産官学で守り、同運河の更なる活性化を目指し、同運河に運河船(Canal Boat)を運航するプロジェクトを立ち上げる為、共同研究を行います。  
特色：小樽運河の利用・活性化を巡っては、過去数度に亘り企画が取り沙汰され、その度に頓挫して来ました。その理由は、企画主が本州資本であったり、商業主義利潤追求を目的としたからです。本プロジェクトでは、小樽資本による、小樽のための、小樽の総力戦（オール小樽）で研究する点に特色があります。

## 会計研究会

1. 代表幹事名：坂柳 明（商学科・准教授）

2. 目的・内容：

「世界に開かれた会計」を目指し、国際会計基準の歴史的変遷について、知識を深めることを目的としています。

3. 平成21年度活動実績：

昨年度に引き続き、Christopher Nobes and Robert Parker ed., Comparative International Accounting, Prentice Hall, 10th ed., 2008. を報告、検討しました。各回の報告者と報告内容は次のとおりです。

|           |                                                                                |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 4月18日（土）  | 第1回 旗本 智之：第5章上場企業における財務報告の文脈，第6章国際財務報告基準の要請事項                                  |
| 5月30日（土）  | 第2回 原 晴生（札幌学院大学）第7章IFRSの多様な実務，第8章米国における財務報告                                    |
| 6月20日（土）  | 第3回 今村 聡（北海学園大学）：第9章財務報告基準の規範性，第10章会計基準に関する政治的ロビー活動－米国，英国および国際的経験              |
| 7月 4日（土）  | 第4回 檜山 純（札幌大学等（非常勤））：第11章調和化と欧州における移行，第12章調和化と東アジアにおける移行                       |
| 7月25日（土）  | 第5回 渡邊 和夫：第13章個別企業による財務報告の文脈，第14章欧州における非上場企業のための会計規則の制定，第15章欧州における個別企業の会計規則と実務 |
| 10月31日（土） | 第6回 邵 藍蘭（札幌学院大学）：第16章財務報告に関する主要なトピック，第19章セグメント別報告                              |
| 11月28日（土） | 第7回 松本 康一郎（北星学園大学）：第17章連結，第18章外国通貨換算（その1）                                      |
| 12月19日（土） | 第8回 松本 康一郎（北星学園大学）：第18章外国通貨換算（その2）<br>原 晴生：第21章国際的監査                           |

## 開発プロセス研究会

1. 代表幹事名：平沢 尚毅（社会情報学科・教授）

2. 目的・内容：

目的：システム（サービス，製品も含む）開発を『プロセス』の観点から探求することを目的としています。『プロセス』概念を基盤としながら，技術背景となるアーキテクチャー，組織成熟度，協働プロセスを含めた拡張概念を構想します。

特色：一般的な技術的なプロセスのみではなく，利用者，利害関係者などの人間を主体にしたプロセス論を展開します。そのため，様々な人間科学を理論背景に求めています。

3. 平成 21 年度活動実績：

平成 21 年度は，3 社の開発環境について共同研究を実施しました。共同研究の内容は，先方，企業の事情により公開できません。共同研究の概要は，下記のようになります。

1. ソフトウェア開発環境に関する研究
2. ソリューションビジネスへの変革事例
3. UI アーキテクチャ変更に伴う開発基盤プロセスの変更

## **CS(カスタマー・サティスファクション)研究会**

1. 代表幹事名：伊藤 一（商学科・教授）
2. 目的・内容：  
目的：組織のCS（顧客満足）研究に関する研究。
3. 平成 21 年度活動実績：

|          |                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月27日（日） | 第1回 青木 匡光氏（人材育成塾）：「地域活性化における人財教育」<br>13:30-16:00（於：札幌サテライト）                                                                                                                                                                             |
| 3月19日（金） | 第2回 山本 昭二氏（関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授）：「専門職大学院を含めたマネジメント教育の将来像」（懇話会）<br>櫻井 秀彦（北海道薬科大学 社会薬学系 薬事管理学分野 准教授）（報告）；山本昭二氏（コメント）：サービス品質の評価に関する研究の系譜と実証研究による再検討」（研究報告）<br>山本 昭二氏：『バリュープロフィットチェーンの発展と実践』～「顧客満足」と「従業員満足」～（講演）<br>13:00-17:00（於：札幌サテライト） |
| 4月15日（木） | 第3回 沈 潔如（博士後期課程3年）：「北海道ブランド」の仕入れに関する研究－台湾小売バイヤーの視点から－<br>18:00－（於：札幌サテライト）                                                                                                                                                              |

4. 平成 21 年度研究成果（刊行物、HP など）：
 

伊藤

H22. 3. 1 シンポジウム「地域活性化のための人財育成－産官学連携の観点から－」  
第 42 回 E S R I－経済政策フォーラム（内閣府社会経済総合研究所）

沈

H21. 6. 14 生活経済学会第 25 回研究大会「台湾における地域ブランドの選択基準」  
H21. 07. 11 地域活性学会第 1 回研究大会「地域ブランドに関する考察」  
H21. 12. 12 商業学会北海道部会研究発表；「台湾バイヤーの北海道ブランドの選択基準」  
H22. 04. 15 学内 CS 研究会研究発表「北海道ブランド」の仕入れに関する研究  
H22. 04. 26 ビジネス創造センター ディスカッションペーパー No. 126 論題  
「北海道ブランド」の仕入れに関する研究－台湾小売バイヤーの視点から－

## 経営研究会

1. 代表幹事名：高田 聡（商学科・教授）

2. 目的・内容：

経営学に関する理論及び実証研究を中心に研究報告会を開催。商学科経営学講座のスタッフが中心となる活動ですが、より広く報告・参加者を募り、知識の幅広い交流も目指しています。

3. 平成 21 年度活動実績： 下記， 4 回の研究会を開催しました。

|           |                                                                                                             |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月13日（水）  | 田中 幹大：「地方における自動車産業と地域中小企業－北海道の場合－」<br>15:30-（事務棟 第2会議室）                                                     |
| 6月12日（金）  | 高田 聡（小樽商科大学）：「ニューディール型雇用関係の生成－自動車産業を中心とする研究レビュー－」<br>13:00-（研究棟B会議室）                                        |
| 11月25日（水） | 加賀田 和弘（メインコメンター）；松尾睦（応答報告 神戸大学大学院）：書評会：「学習する病院組織－患者志向の構造化とリーダーシップ」（松尾睦著）をめぐって<br>10:30-（研究棟B会議室）            |
| 3月18日（木）  | 加賀田 和弘：「地域資源の活用と事業戦略－北海道食品加工会社「パイオニアジャパン」の事例から－」<br>田中 幹大（小樽商科大学）：「戦後日本の機械工業発展と中小機械金属工業」<br>14:30-（研究棟B会議室） |

## 経済研究会(土曜研究会)

1. 代表幹事名：水島 淳恵（経済学科・准教授）

2. 目的・内容：

この研究会の目的は当学における研究活動に対する啓蒙であり、当学内外の研究者の研究報告により、経済学の最新の研究テーマに触れる機会を当学研究者に提供するとともに、テーマを巡る議論を通じて研究会参加者の研究活動を促進することです。

3. 平成21年度活動実績：

|          |                                                                                                |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月15日（金） | 川浦 昭彦（同志社大学）： Self-Serving Mayors and Local Government Consolidations in Hokkaido              |
| 6月26日（金） | 角野 浩：環境フィードバック効果を考慮したSandmoモデルによる二重配当仮説の再考察                                                    |
| 7月10日（金） | 人見 光太郎（京都工芸繊維大学）：A Nonparametric test of the existence of moments: Does the k-th moment exist? |
| 7月17日（金） | 劉 慶豊（小樽商科大学）：An Estimation Method for Varying-Coefficient Partially Linear Models              |
| 7月24日（金） | 岑 智偉（京都産業大学）：A Variety Expansion Model of Growth with Rent Seeking Activities                  |

|           |                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月24日（木）  | 平口 良司（立命館大学）：Money and Capital in an Overlapping Generations Model with Search                                                                                                                                              |
| 9月29日（火）  | 橋本 賢一（神戸大学）：International outsourcing, the real exchange rate, and effective demand                                                                                                                                         |
| 10月23日（金） | 田中 隆一（東京工業大学）：Industry Choice and the Returns to Education                                                                                                                                                                  |
| 10月30日（金） | 金谷 太郎（滋賀大学）：Subsampling Cumulative Covariance Estimator                                                                                                                                                                     |
| 11月 6日（金） | 板谷 淳一（北海道大学）：Partial Tax Coordination in a Repeated Game Setting                                                                                                                                                            |
| 12月 4日（金） | 兵庫 一也（龍谷大学）：Random Discounting with Habits                                                                                                                                                                                  |
| 12月18日（金） | 本間 正義（東京大学）：日本農業の総合戦略と地域経済の活性化                                                                                                                                                                                              |
| 1月22日（金）  | 堀井 亮（東北大学）：Dual Poverty Trap: Intra-and Intergenerational Linkages in Frictional Labor Markets                                                                                                                              |
| 2月19日（金）  | 二神 孝一（大阪大学）：Dynamic analysis of a renewable resource in a small open economy: The role of government subsidy policy for the environment<br>三野 和雄（京都大学）：Trade Structure and Equilibrium Indeterminacy in a Two-Country Model |
| 2月26日（金）  | 西山 慶彦（京都大学）：Measuring firm specific productivities under endogeneity（地域研究会との共催）                                                                                                                                             |

#### 4. 平成21年度研究成果（刊行物，HPなど）：

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/econ/workshop/history.html#h21>

### **国際取引契約研究会**

#### 1. 代表幹事名：中村 秀雄（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

#### 2. 目的・内容：

これから国際取引を始めようとしている人や、既に取引を行っている人を対象に

- ① 輸出入取引，国際取引のノウハウ
- ② 国際的事業をどう構築すればよいか
- ③ 国際取引契約書（特に英文契約書）検討のコツ

を勉強することなどを目的に行っています。参加者が実際に業務で使っている生の資料の提供を受けて，どのように対応すればよいかを，具体的にかつ実践的に研究するほか，貿易，国際契約の基礎理論も勉強しています。2009年度後半からは，我が国でも8月1日から効力を発生した「国際物品売買契約に関する国際連合条約」（通称「ウィーン売買条約」）の研究に着手し，条文や判例を読んでいます。

#### 3. 平成21年度活動実績：

9回の研究会を行い，延べ104人が出席しました。9人の新入会員がありました。

### **商学研究会**

#### 1. 代表幹事名：小田 福男（商学科・教授）

2. 目的・内容：

商学科所属教員全員がメンバー。商学科教員および学外の研究者による研究発表ならびに意見交換等を行います。各教員の研究内容について、これを専門分野にとらわれることなく、多角的な視点から議論することが特徴です。

3. 平成21年度活動実績：

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月8日（土）   | Ha Yeon Chan（極東大学）Jung Ku-Hyun（コメンテーター 三星経済研究所 顧問）：<br>「国際経営の韓日比較」（英語使用）<br>17:00-（地域研究会との共催）                                                                                                                                                                                                   |
| 12月22日（火） | 目代 武史（東北学院大学）：「自動車産業における地場部品メーカーの能力構築」<br>17:00-（地域研究会との共催）                                                                                                                                                                                                                                     |
| 1月29日（金）  | Dr.Chew Yin Teng（Monash University, Malaysia）「日本政府によるマレーシア自動車産業支援—トヨタ生産方式の移転について」（英語使用）<br>1600-（地域研究会との共催）                                                                                                                                                                                     |
| 2月19日（金）  | Dr.Mohamed Aslam（第1報告者 Senior Lecture Faculty of Economics and Administration University of Malaya）：ASEAN-China Free Trade Agreement（英語使用）<br>Prof. Jorge Carrillo Viveros（第2報告者 The Northern Border College）：Recent Situation of Japanese and Foreign MNCs in Mexico（英語使用）<br>1600-（地域研究会との共催） |

## 進化経済学ワークショップ

1. 代表幹事名：江頭 進（経済学科・准教授）

2. 目的・内容：

現代の経済学では捉えきれない知識と制度の進化に焦点をあてた進化経済学の研究と教育方法の検討をおこなうことを目的としています。

特に進化経済学の標準的テキストを編纂することを主な活動内容としています。

3. 平成21年度活動実績：

|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 9月23日（水） | 『進化経済学 基礎』 出版のための打ち合わせ（四天王寺大学） |
| 9月25日（金） | 『進化経済学 基礎』 出版のための打ち合わせ（四天王寺大学） |

## 地域環境問題研究会

1. 代表幹事名：八木 宏樹（一般教育等・教授），事務局：山本 充（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

地域社会が抱える環境問題を自然科学・社会科学の両面から分析し、その解決に向けた処方



箋や情報を提供することを目的とします。

## 地域研究会

1. 代表幹事名：和田 健夫（副学長）、穴沢 眞（商学科・教授）

2. 目的・内容：

この研究会は、現在の北海道が置かれた深刻な経済・財政状況を研究し、北海道に住む人々自身の手によって、この問題を克服する方法を研究するために、平成 21 年度より小樽商科大学内に設置されました。本研究会は現在の北海道が抱える問題を考えると同時に今後どのような方向に我々が進んでいくべきかを見据えるために、グローバル化という大きな流れの中で同じように地域経済の活性化に取り組んでいる様々な地域の研究も視野に入れていきます。地域研究会では、単に小樽商科大学だけでなく、国内外の他の大学等の研究機関、北海道庁を初めとする地方自治体、および道内企業とも協力しながら問題と解決法の発見を行います。

3. 平成 21 年度活動実績：

|           |                                                                                                                                                                                            |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月8日（土）   | Ha Yeon Chan（極東大学）Jung Ku-Hyun（コメンテーター 三星経済研究所 顧問）：<br>「国際経営の韓日比較」（英語使用）<br>17:00-（商学研究会との共催）                                                                                              |
| 8月10日（月）  | Jung Ku-Hyun（韓国 サムソン経済研究所顧問）：公開講演会「世界金融危機と東アジア経済～北海道への示唆」                                                                                                                                  |
| 11月27日（金） | 穴沢 眞；カロラス・プラート；Dong-Min Rieu（忠南大学）；Hyung Jun Kim（忠南大学）：Globalization and Regional Economic Cooperation: Crisis and Opportunity グローバリゼーションと地域経済協力－危機と可能性－（忠南大学とのジョイントセミナー）                  |
| 12月16日（水） | 才原 慶道：知的財産権の独占的利用者による差止請求（仮）（法制研究会との共催）                                                                                                                                                    |
| 12月22日（火） | 目代 武史（東北学院大学）：「自動車産業における地場部品メーカーの能力構築」<br>17:00-（商学研究会との共催）                                                                                                                                |
| 1月29日（金）  | Dr.Chew Yin Teng（Monash University, Malaysia）「日本政府によるマレーシア自動車産業支援－トヨタ生産方式の移転について」（英語使用）<br>1600-（商学研究会との共催）                                                                                |
| 2月 2日（火）  | 松尾 弘（慶應義塾大学大学院）：法整備支援と開発法学－良い統治と法の支配の関係に焦点を当てて－<br>片山 直也（慶應義塾大学大学院）：「PACL 研究会」の趣旨と活動の概要について（アジア法へのもう一つの試み－PACL 構想の課題と展望）<br>鹿野菜穂子（慶應義塾大学大学院）：「PACL フォーラム」について（アジア法へのもう一つの試み－PACL 構想の課題と展望） |
| 2月18日（木）  | 神崎 稔章：「北海道の貯蓄投資バランスについて」（道庁との合同研究会）                                                                                                                                                        |

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月19日（金） | Dr.Mohamed Aslam（第1報告者 Senior Lecture Faculty of Economics and Administration University of Malaya）：ASEAN-China Free Trade Agreement（英語使用）<br>Prof. Jorge Carrillo Viveros（第2報告者 The Northern Border College）：Recent Situation of Japanese and Foreign MNCs in Mexico（英語使用）<br>1600-（商学研究会との共催） |
| 2月26日（金） | 西山 慶彦（京都大学）：Measuring firm specific productivities under endogeneity（経済研究会との共催）                                                                                                                                                                                                                 |
| 3月24日（水） | 齋藤 一郎：「北海道における金融機関の資金仲介ビジネス」（道庁との合同研究会）                                                                                                                                                                                                                                                         |

#### 4. 平成21年度研究成果（刊行物、HPなど）：

- ・「大学におけるキャリア教育の実践－10年支援プログラムの到達点と課題」を出版
- ・その他活動実績等詳しくは地域研究会のホームページをご覧ください。

<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/globalism/>

### **地方政治システム研究会**

1. 代表幹事名：相内 俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：
 

地方政府のマネジメントを、財政バランス・政策選択の優先順位・住民満足度・発展戦略などの観点から研究します。

### **地方政府レベルにおける多文化主義的地域政策研究会**

1. 代表幹事名：相内 俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：
 

北海道の市町村における多文化主義的地域政策推進のための諸条件、政策領域の可能性などについて、比較文化的観点から研究し、地方政府の政策形成に寄与することを目的とします。

### **法制研究会**

1. 代表幹事名：河野 憲一郎（企業法学科・准教授）及び 一原 亜貴子（企業法学科・准教授；前期担当）／才原 慶道（企業法学科・准教授；後期担当）
2. 目的・内容：
 

広く法律学一般に関する学術の進歩を図るため、これに必要な調査研究発表を行うとともに、教官相互の研鑽と大学院教育の向上に寄与すること。

小樽商科大学商学部企業法学科所属の教官および院生の研究発表。

1998年度以降は、大学院科目「法学総合研究A」「法学総合研究B」として、大学院生の教育の場ともなっています。

### 3. 平成21年度活動実績：

|           |                                                                                                                                                     |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月15日（水）  | 第1回（通算110回）麗 紅（小樽商科大学大学院修士課程）：＜判例報告＞最高裁平成17年10月11日（民集59巻8号）2243頁「相続が開始して遺産分割未了の間に第二次の相続が開始した場合において第二次被相続人から特別受益を受けた者があるときの持戻しの要否                    |
| 5月27日（水）  | 第2回（通算111回）河森 計二：新保険法における保険媒介者の告知妨害・不告知教唆について                                                                                                       |
| 6月17日（水）  | 第3回（通算112回）小林 友彦：国際経済法分野において、紛争処理手続が複層的に併存することの法的諸問題——北米地域におけるWTO, NAFTA, 国内裁判所、商事仲裁の交錯に注目して——                                                      |
| 7月22日（水）  | 修士論文中間報告会                                                                                                                                           |
| 10月28日（水） | 第4回（通算113回）井戸 希（小樽商科大学大学院修士課程）：＜判例報告＞最判平成20年3月6日（民集62巻3号665頁）「住民基本台帳ネットワークシステムにより行政機関が住民の本人確認情報を収集、管理又は利用する行為と憲法13条」                                |
| 11月18日（水） | 第5回（通算114回）河野 憲一郎：破産債権確定手続の基本構造                                                                                                                     |
| 12月16日（水） | 第6回（通算115回）才原 慶道：知的財産権の独占的利用者による差止請求（仮）（地域研究会との共催）                                                                                                  |
| 1月20日（水）  | 第7回（通算116回）麗 紅（小樽商科大学大学院修士課程）：＜判例報告＞最高裁平成19年3月23日第二小法廷決定（民集61巻2号619頁）「市町村長の処分に対する不服申立て却下審判に対する抗告審判の変更決定に対する許可抗告事件」                                  |
| 2月 3日（水）  | 第8回（通算117回）大澤 文幸（小樽商科大学大学院修士課程）：相続税法22条における「時価」に関する一考察——評価基本通達に定める原則的評価方法によらない評価について——<br>酒井 信裕（小樽商科大学大学院修士課程）：ラブホテル規制条例の法的研究——小樽市ラブホテル建築規制条例を素材に—— |

### 4. 平成21年度研究成果（刊行物、HPなど）：

平成21年度に開催された法制研究会の各報告題目などが、

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/law/housei/housei09.html> で公開されています。

## 北東アジア・サハリン研究会

### 1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

### 2. 目的・内容：

経済活性化が望まれている北海道と大規模石油・ガス開発プロジェクトを実現しつつあるサハリンとの関係を中心軸にとり、それを取り囲む北東アジア地域の様々な問題群を検討します。

## **北海道ヘルスケア・マネジメント研究会**

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
「医療経営」に関する研究，調査，セミナーを実施

## **マーケティング研究会**

1. 代表幹事名：プラート・カロラス（商学科・教授）
2. 目的・内容：  
本研究会の目的はマーケティング分野における最新研究に関する情報交換及び研究者交流の場を設けることです。本研究会におきましては，マーケティング関連の学内及び学外研究者による最新研究の報告，議論を行います。

## IV－2. Discussion Paper Series

平成 21 年度に発行したディスカッション・ペーパーは以下の 6 編です。

### No.119 飯田 浩志:Discussion paper series no.118 への補遺(7 月)

概要：本稿では、整数ナップサック問題の周期性に関連して、Discussion paper series no.118 で議論した補題 2 について、二点ほど補足する。

### No.120 角野 浩:環境フィードバック効果を考慮した Sandmo モデルによる二重配当仮説の再考察 (7 月)

概要：本稿は、Bovenberg and Mooij (1994), Fullerton(1997)等が提唱した外部不経済が生じる財への課税が二重配当 (double-dividend) 効果を持つかについて再考察を試みる。特に二重配当効果は、Sandmo(2000)及び Cremer et al. (2001)が考慮した外部性と消費の相互依存関係 (interrelationship between externality and consumption) が重要な役割を果たす。特に、外部不経済財に着目した需要の環境フィードバック効果 (environmental feedback on demand) を Shinotsuka and Sumino(2005)の一致条件 (consistency condition)を用いて表し、最適課税モデルで用いられる (i)需要独立性 (independent demands), (ii)分離可能な外部性 (separable externalities) の仮定との関連の中で二重配当仮説の検証を試みる。

本稿の結論は以下の通りである。Sandmo の需要の環境フィードバック効果は、ピグー税と消費税との間の大小関係に影響し、二重配当効果が存在する条件を規定する重要な要因である。特に、Bovenberg and Mooij (1994), Fullerton(1997)等が試みたような環境フィードバック効果を明示的に考慮しない分析の場合、および (i), (ii)を仮定して環境フィードバック効果を捨象した上で Sandmo(1975)の分析と比較した場合、二重配当仮説の検証が十分に尽くされない可能性がある。

### No.121 劉 慶豊:部分線形モデルの差分推定量の漸近理論(10 月)

概要：本論文は部分線形モデルの重み付き差分法による推定量の漸近理論に関して論じる。一定の正則条件のもとで推定量の漸近正規性を確認する。さらに、漸近的にセミパラメトリックモデルの効率性を達成するための差分の次数のオーダーを明らかにし、重み付き差分の重みが満たすべき制約を明らかにする。

### No.122 劉 慶豊:モデル平均理論の新展開(10 月)

概要：本論文はモデル選択とその発展系であるモデル平均(model averaging)に関する既存の研究結果を概観する。モデル平均の意味合いとモデル平均の応用及び未解決問題に関して説

明する。さらに、モデル平均に関連する未解決問題に関する研究の将来的な方向を述べる。論文の中で実際のデータを利用した予測の例を示す。

**No.123 Koji Yokota: Production Theory with Convex Labor Friction:  
Foundation of an Optimal Non-market-clearing Economy(12 月)**

概要 : A production theory with labor friction is studied in which a firm employs multiple workers facing convex search friction which possesses characteristics of robustness against any small perturbations on the functional form of friction. Convex search function makes the path outside of unbounded steady state possess greater significance than mere transition, since any level of output can be supported as a steady state equilibrium depending on the state of expectation and the unbounded steady state is only one of those continuously many equilibria. Moreover, its market outcome is that---even though vacancy cost can be infinitesimally small for a given amount of job posting---a variant of effective demand principle must be effective. The result comes from the fact that the marginal profit value of labor is always strictly positive, which results in persistent excess demand in the labor market and excess supply in the goods market, whereas the existence of search friction prohibits immediate adjustment of employment according to optimality to make further hiring depend on coordination of expectation. It raises non-market-clearing equilibrium without wage-rigidity in competitive markets.

**No.124 平井 進: 19世紀ドイツの農村ゲマインデ制と政治参加資格---北西ドイツ・ハノーファーを中心に--- (2 月)**

概要 : [Web への掲載不可]

# IV-3. 研究成果, 各種メディアへの寄稿および講演

CBC が各教員へ実施した調査に回答があった分のみ掲載しています。本学刊行の紀要等は除きます。

(氏名五十音順)

| 氏 名   | 主催・メディア名等                                                                                    | 日 付       | テーマ・タイトル                                                                                                                                                  |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 海老名 誠 | 『小樽學』                                                                                        | 4 月号      | 地域経済①経済を読む 地域経済とグローバル化 (寄稿)                                                                                                                               |
|       | 『小樽學』                                                                                        | 5 月号      | 地域経済②経済を読む 地域経済とグローバル化 (寄稿)                                                                                                                               |
|       | 小樽市民大学講座                                                                                     | 7 月 22 日  | こんなときだからアジアと共に (講演)                                                                                                                                       |
|       | 北海道新聞                                                                                        | 10 月 1 日  | 読者と道新委員会                                                                                                                                                  |
|       | 北海道新聞                                                                                        | 10 月 18 日 | 提言 2009 経済成長 (寄稿)                                                                                                                                         |
|       | 寒地土木研究所<br>第 5 回 技術者交流<br>フォーラム in 小樽                                                        | 12 月 1 日  | 北海道観光 観光産業事業者の勘違い (基調講演)                                                                                                                                  |
|       | 北海道経済活性化フ<br>ォーラム ～本道経<br>済の成長力強化に向<br>けて～ (主催: 北海<br>道)                                     | 12 月 11 日 | パネリスト                                                                                                                                                     |
|       | 『小樽學』                                                                                        | 1 月号      | 地域経済③経済を読む 小樽の将来は中国・ア<br>ジアと共に (寄稿)                                                                                                                       |
|       | 北海道新聞ぶんぶん<br>クラブ/小樽商科大<br>学                                                                  | 1 月 23 日  | アジアと共にーこれからの北海道を考えるー<br>(時代が読める 経済・ビジネス講座特別編)<br>(講演)                                                                                                     |
|       | 『小樽學』                                                                                        | 2 月号      | 地域経済④経済を読む 発展を続けるアジア<br>経済 (寄稿)                                                                                                                           |
|       | 北海道新聞                                                                                        | 2 月 18 日  | 読者と道新委員会                                                                                                                                                  |
|       | 北海道新聞                                                                                        | 2 月 28 日  | 提言 2009 中国貿易 (寄稿)                                                                                                                                         |
|       | 『小樽學』                                                                                        | 3 月号      | 地域経済⑤経済を読む 発展を続けるアジア<br>経済 (2) (寄稿)                                                                                                                       |
| 小林 友彦 | 『小樽商工会議所会<br>報 Sea Port Waltz』                                                               | 3 月号      | 産学官の連携で小樽を元気に! (小樽商大ビジ<br>ネス・ワンポイント) (寄稿)                                                                                                                 |
|       | 有斐閣                                                                                          | 7 月       | 松下満雄、清水章雄、中川淳司 (編)<br>『ケースブックWTO法』 (分担執筆)                                                                                                                 |
|       | Asian<br>International<br>Economic Law<br>Network<br>(AIELN/SIEL)<br>Inaugural<br>Conference | 8 月 3 日   | ” Dynamic Process of Transnational Dispute<br>Settlement as an Autopoietic<br>System?: Implications of North American<br>Experiences to East Asia” (学会発表) |
|       | 『日本国際経済法学<br>会年報』 18 号,<br>225-229 頁                                                         | 11 月      | Douglas A. Irwin, Petros C. Mavroidis, Alan<br>O. Sykes, The Genesis of<br>the GATT (New York:Cambridge University<br>Press2008, 314p) (書評)               |

|                |                                |                                                                                        |                                                   |
|----------------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 近藤 公彦<br>(つづく) | UHB スーパーニュース                   | 4 月 15 日                                                                               | 丸井支援案を同日提出 伊勢丹か？高島屋か？（出演）                         |
|                | NHK 北海道クローズアップ                 | 4 月 17 日                                                                               | 地方にビジネスチャンスありー ターゲットはお年寄りー（出演）                    |
|                | コープさっぽろビジネススクール基礎研修            | 4 月 23 日<br>4 月 30 日<br>5 月 7 日<br>5 月 14 日<br>5 月 21 日<br>6 月 4 日                     | マーケティング（講義）                                       |
|                | 日本商業学会北海道部会                    | 4 月 25 日                                                                               | POS 情報開示による新次元のチャネル・パートナーシップの構築ー コープさっぽろのケースー（報告） |
|                | HTB イチオシ！                      | 4 月 30 日                                                                               | 丸井今井スポンサー 三越伊勢丹 HD に決定（出演）                        |
|                | UHB スーパーニュース                   | 5 月 15 日                                                                               | 加速する“脱デパート”（出演）                                   |
|                | 日本商業学会ワークショップ「流通企業の戦略を組織から考える」 | 5 月 29 日                                                                               | POS 情報開示による新次元のチャネル・パートナーシップの構築ー コープさっぽろのケースー（報告） |
|                | とましん創生塾                        | 6 月 16 日                                                                               | マーケティングの発想法ー 事例で学ぶマーケティングのエッセンスー（講義）              |
|                | 同文館出版                          | 7 月                                                                                    | 小樽商科大学ビジネススクール編『MBA のための組織行動マネジメント』（共著）           |
|                | 帯広畜産大学アグリバイオ人材育成事業             | 7 月 9 日                                                                                | マーケティング（講義）                                       |
|                | 高校生のための夏期連続講義                  | 8 月 8 日                                                                                | 売れる商品のつくり方（講義）                                    |
|                | 小樽商科大学シニアアカデミー2009             | 9 月 1 日                                                                                | 地域のマーケティングー 魅力ある街づくりに向けてー（講演）                     |
|                | WEB サクセス<br>スペシャルネットショップセミナー   | 9 月 26 日                                                                               | ネットショップ成功のためのマーケティングの基礎ー 顧客視点のマーケティングー（講演）        |
|                | マーケティングアカデミー2009 ベーシックコース      | 10 月 1 日                                                                               | 競争優位のマーケティング力ー 景気後退をビジネスチャンスにー（講演）                |
|                | マーケティングアカデミー2009 アドバンスコース      | 10 月 6 日<br>10 月 13 日<br>10 月 20 日<br>10 月 27 日<br>11 月 10 日<br>11 月 17 日<br>11 月 24 日 | ケース分析セミナー（講演）                                     |
|                | 道新ぶんぶんクラブ                      | 10 月 14 日                                                                              | 新聞の読み方講座（講演）                                      |
|                | 同友会経営者大学                       | 10 月 31 日                                                                              | 顧客満足と中小企業のマーケティング（講演）                             |
|                | 同文館出版                          | 11 月                                                                                   | 小樽商科大学ビジネススクール編『MBA のための基本問題集』（共著）                |



|                |                                                  |                                                                                |                                                                                     |
|----------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 近藤 公彦<br>(つづき) | 通年雇用支援セミナー                                       | 11 月 11 日                                                                      | 不況こそビジネスチャンスー 景気後退を乗り越えるマーケティング発想ー (講演)                                             |
|                | さっぽろビジネス塾                                        | 11 月 16 日                                                                      | 不況こそビジネスチャンス！ー 景気後退を乗り越えるマーケティング力ー (講演)                                             |
|                | 同文館出版                                            | 1 月                                                                            | 高嶋克義・西村順二編『小売業革新』(共著)<br>「小売業における顧客関係管理の構造と成果」                                      |
|                | 札幌手稲高校「学び体験ゼミ」                                   | 1 月 21 日<br>2 月 9 日                                                            | 売れる商品のつくり方 (講演・演習)                                                                  |
|                | ブランド開発技術研修会・講演                                   | 1 月 27 日                                                                       | わかりやすいブランド開発とマーケティング (講演)                                                           |
|                | 帯広信金地域経営塾                                        | 2 月 18 日                                                                       | 事例で学ぶマーケティングのエッセンスー 不況をビジネスチャンスにー (講演)                                              |
|                | 水産加工セミナー                                         | 2 月 26 日                                                                       | ブランド開発とマーケティング (講演)                                                                 |
|                | 日本マーケティング協会北海道支部 テーマ戦略セミナー                       | 3 月 15 日                                                                       | ブランド構築とマーケティングー よりパワフルなブランディングを目指してー (講演)                                           |
| 中村 秀雄          | 国際私法学会 第 119 回大会 (於：学習院大学)                       | 5 月 10 日                                                                       | 「<特集>ウィーン売買条約と国際私法」において「国際契約実務への影響」(学会報告)                                           |
|                | 株式会社 商事法務                                        | 7 月                                                                            | 『英文契約書修正のキーポイント』(単著)(著書)                                                            |
|                | コープさっぽろビジネススクール基礎研修                              | 9 月 10 日<br>9 月 17 日                                                           | 「商取引と契約」(講義)                                                                        |
|                | 「食品業界グローバル人材育成講座」(主催：さっぽろ雇用創出推進協議会)              | 10 月 14 日                                                                      | 「国際取引入門」(講演)                                                                        |
|                | 国際商事法研究所<br>IBL Business Law School              | 6 月 15 日<br>10 月 16 日<br>2 月 25 日                                              | 「英文契約書作成のキーポイント セミナー」(セミナー)                                                         |
| 深田 秀実<br>(つづく) | 『GISー理論と応用』<br>Vol.18 , No.1 ,<br>pp.11-19       | 3 月<br>*2009 年 3 月 23 日原稿受理, 2009 年 12 月 22 日採用決定, 2010 年 4 月 26 日デジタルライブラリ掲載) | 深田秀実, 阿部昭博:「地方自治体における GIS 発展過程分析と有用性の検討」(論文)                                        |
|                | 『第18回地理情報システム学会研究発表大会講演論文集』<br>pp.457-460        | 10 月                                                                           | 窪田 諭, 曾我 和哉, 佐々木 敬志, 瀧澤 寛之, 深田 秀実, 阿部 昭博:「地域 SNS を核とする住民参加型 GIS の開発とその活用モデルの提案」(論文) |
|                | 「地理空間情報活用推進セミナー」(主催：北海道産学官研究フォーラム／北海道GIS・GPS研究会) | 12 月                                                                           | 「情報通信技術を用いた自治体GISの高度応用ーRFIDとGISによる道路施設管理支援システムの提案と評価ー」(講演)                          |

|                |                                    |     |                                                                      |
|----------------|------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------|
| 深田 秀実<br>(つづき) | 『情報処理学会研究報告』Vol. IS-111,<br>No. 12 | 3 月 | 深田秀実, 小林和恵, 香月亜希, 井原雅行:<br>「テーブル型ユーザインタフェースを適用した災害情報管理支援システムの提案」(報告) |
|----------------|------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------|

ユーザーエクスペリエンス研究部門

| 主催・メディア名等                                                                                  | 日付   | テーマ・タイトル                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 組込みシステム開発技術展<br>(ESEC)・専門セミナー                                                              | 5 月  | 「新しいアプローチによる車載ソフトウェア開発環境<br>の構築」(平沢)(講演)                                        |
| HCD-Net シンポジウム 2009                                                                        | 5 月  | (後援)                                                                            |
| HCD-Net シンポジウム 2009                                                                        | 5 月  | 「組込みプロセスへの UI 設計の統合」(尾形・桶谷・葛<br>西)(講演)                                          |
| “Human-Computer<br>Interaction” 13th<br>International Conference<br>HCI International 2007 | 7 月  | “Designing Transportation Services Based on HCD”<br>(山田・平沢・尾形・大津)(論文)           |
| 土木学会全国大会講演集                                                                                | 9 月  | 「男女共同参画推進のための数値目標の設定について」<br>(山田)(学会報告)                                         |
| NPO 法人 ビジネス創造研究所                                                                           | 12 月 | 「市民中心のサービス創造に向けて～市民とともに考<br>え市民とともに創る～」(平沢)(講演)                                 |
| 札幌市政政策マーケティング研<br>究会                                                                       | 1 月  | 「電子政府ユーザビリティガイドラインの紹介」(平<br>沢)(講演)                                              |
| SEC 特別セミナー 組込みソ<br>フトウェアの信頼性を考える                                                           | 2 月  | 「組込みソフトウェア信頼性向上のための 20 のポイン<br>ト (1) ユーザビリティの視点から」(平沢)(講演)                      |
| ビジネス創造センター産学官<br>連携研究成果報告会                                                                 | 2 月  | 「人間中心設計にもとづく開発プロセスに関する研究<br>～ユーザーエクスペリエンス(ユーザー経験)をシステ<br>ムに実装するために～」(平沢・尾形)(講演) |
| 『土木学会誌』第 95 巻, 2 号                                                                         | 2 月  | 「ダイバーシティの推進に向けて」(山田)(寄稿)                                                        |
| 『土木学会論文集 H(教育)』<br>第 2 巻                                                                   | 3 月  | 「土木学会における男女共同参画の取り組みと今後の<br>課題」(山田)(論文)                                         |
| 日本人間工学会「情報社会人間<br>工学部会」                                                                    | 3 月  | 「要求仕様定義と人間工学」(共催)                                                               |

\* 平沢＝平沢 尚毅 尾形＝尾形 慎哉 桶谷＝桶谷 利幸 葛西＝葛西 秀昭  
山田＝山田 菊子(河合) 大津＝大津 晶

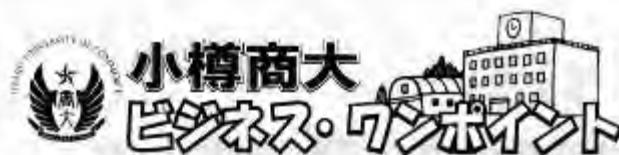
## 『小樽商工会議所会報 Sea Port Waltz』連載「小樽商大ビジネス・ワンポイント」

ビジネス創造センターでは、平成 20 年 7 月より『小樽商工会議所会報 Sea Port Waltz』に「小樽商大ビジネス・ワンポイント」の連載をはじめました。

毎号センターのスタッフがそれぞれの知見を生かして、小樽の現状や活性化に関するアドバイス等を寄稿し、会員企業の経営や街づくりに有益な情報を提供しています。

平成 21 年度連載リスト（21 年度 5 月号より隔月刊）

| 号              | 執筆者    | タ イ ト ル                          |
|----------------|--------|----------------------------------|
| 4 月号（第 426 号）  | 酒井 秀人  | 小樽商科大学の産学官連携活動について               |
| 5 月号（第 427 号）  | 佐藤 準   | 文部科学省産学官連携コーディネーターの活動について        |
| 7 月号（第 428 号）  | 木村 泰知  | 小樽市の情報をまとめて発信する「小樽市 APL」を作りませんか？ |
| 9 月号（第 429 号）  | 中村 秀雄  | チャレンジ国際取引                        |
| 11 月号（第 430 号） | 加賀田 和弘 | 小樽市のポジショニングとリソースー経営戦略論からの示唆ー     |
| 1 月号（第 431 号）  | 堺 昌彦   | サービス業での原価計算の可能性                  |
| 3 月号（第 432 号）  | 海老名 誠  | 産学官の連携で小樽を元気に！                   |



## 小樽商科大学の産学官連携活動について

国立大学法人小樽商科大学 総務課研究協力係長 酒井 秀 人

総務課研究協力係は、大学の共同研究、受託研究、産学連携等を担当しており、ビジネス創造センター（CBC）の事務サポートも行っております。（この4月から組織の見直しに伴い、総務課から企画・評価室に所属変更となっております。）

今回は事務担当者である私の視点から大学の産学官連携活動の取組の現状等を書かせていただきますので、タイトルである「ビジネス・ワンポイント」のようにアドバイスにはならない点はご容赦下さい。

### 地域連携協議会について

本学では産学官連携活動を連携・協力して行う組織として北海道、小樽市、札幌市、小樽商工会議所、札幌商工会議所、中小企業家同友会に構成員として参加していただき「小樽商科大学地域連携協議会」を設置して、各種の連携事業を実施しています。

平成20年度の実施事業は5件があり、この中の『東アジア・マーケットリサーチ事業』では、食料品や工芸品などの小樽の地場産品について台湾や香港等において商談会の実施や市場調査等を行い、地域産業の活性化を目指した事業を実施しています。本事業にはCBCの海老名センター長が参加、協力しております。

この他に留学生関係の連携事業として、小樽市と共に『留学生等のホストファミリーの連携拡大事業』を実施しています。小樽市の姉妹都市からの訪問者や本学の外国人留学生が日本の文化等を学び、また自国の文化を紹介する場・友好の場として「ホームステイ」を提供していますが、年々ホストファミリー数が減少していますので、受入家庭の拡大を図ろうという事業です。

留学生を受け入れるホストファミリーの募集は随時行っておりますので、興味のある方は本学の国際企画課にお問い合わせ下さいませようお願いいたします。

### マジプロの活動について

3月14日（土）に市民センターマリナーホールにおいてマジプロ『商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト』の成果報告会を開催しました。これに先立つ3月5日（木）に東京で開催された「社会人基礎力グランプリ2009決勝大会」においては、本学のチームは参加した全国40大学の中から9大学までに絞り込まれる事前の予選会を勝ち抜き、見事に特別奨励賞（チームワーク部門）を受賞しました。

このプロジェクトは、平成21年度からは正規科目（2年次科目「地域連携キャリア開発」）となります。今後は、地域の幅広い政策課題の分析や解決策の提案等を行うためにフィールドワークを実施する予定であり、企業の皆様にもご協力をお願いすることになりますので、その際はどうぞよろしくお願い致します。

### CBCのビジネス相談について

CBCでは新規事業や経営に関するビジネス相談を実施しております。経営、マーケティング等の専門家であるCBC学外協力スタッフ、本学の教員が対応します。

ちょっとしたアイディアからビジネスとなる事もありますので、お気軽にCBCにお問い合わせ下さい。

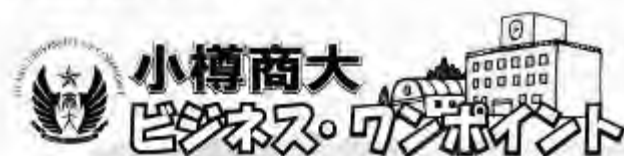
### 小樽商科大学創立百周年について

最後に、本学は2011（平成23）年に創立百周年を迎えます。

大学のホームページに専用のページを設け、イベント等のご案内を行っておりますので、一度ご覧下さい。

百周年事業の実施にあたり、色々お世話になることが多々あるかと思いますが、ご協力よろしくお願い致します。

百周年記念事業のページは下記のURLです。  
<http://www.otaru-uc.ac.jp/hssomul/100ch/100chiop.htm>



## 文部科学省産学官連携コーディネーターの活動について

国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センター  
文部科学省産学官連携コーディネーター 地域の知の拠点再生担当

佐藤 準

小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)には、2名のコーディネーターが配置されています。今回は、この場をお借りしまして、小樽商科大学にも配置されている文部科学省産学官連携コーディネーター(以降はコーディネーターと略します)の活動について書かせていただきます。ビジネスの勘所とまでは触れることが難しいと感じておりますが、どうぞご容赦いただきますようお願い申し上げます。

### 文部科学省産学官戦略展開事業(コーディネートプログラム)

この事業では、大学等から産業界、地域社会に対し知識の移転、研究成果の社会還元を果たす目的で、共同研究の企画、契約、渉外等において、大学等では不足している分野での専門知識や実務経験を持った人材を大学に配置しています。文部科学省では、平成13年からこの事業を開始し、平成20年度からは、産学官連携戦略展開事業(コーディネートプログラム)と名を変えて展開し、現在、事業開始から9年目となりました。この間に、上述の機能を維持しつつ、研究成果の応用・発展可能性を見極めて実用化に向けた取組を支援する「自利き・制度開つなぎ担当」コーディネーターの配置、次いで、大学等と、地域の企業や自治体との連携促進によって、地域の特性を生かした地域産業の活性化や大学等を拠点とする産学官連携ネットワーク形成を図る「地域の知の拠点再生担当」コーディネーターの配置へと発展してまいりました。

### 「地域の知の拠点再生担当」コーディネーターの活動

文部科学省のコーディネーターは、全国で80名配置され、そのうち22名が「地域の知の拠点再生担当」です。「地域の知の拠点再生担当」の具体的な活動は、まず、他の担当と同様に、自らが配置されている大学教員の研究シーズや地域連携への意向などの調査を行っています。「地域の知の拠点再生担当」は、主に配置大学が所在する自治体と連携することを求められており、自治体の施策やその現状の調査、また、必然的

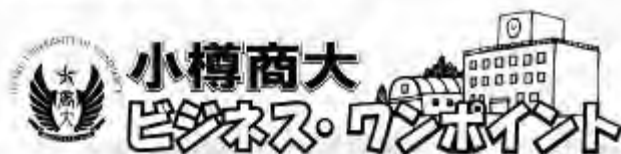
に地域の産業振興や町づくりなどに関する施策の方向性に沿って、企業、銀行、産業団体等を訪問し、地域の現況や企業のニーズを調査しています。このような活動を通じて、大学、自治体、地域の企業などが単独では解決できない部分を、2者または3者の連携を推進し、出口に向かう支援を行っております。たいていはなんらかのプロジェクトの調整役となることが多く、連携のニーズが、企業発であったり、大学発であったり。また、核となる人材が無い場合は、コーディネーター自らがプロジェクトを企画する場合もあります。

### コーディネーターの活動事例

このような産学官連携は、大学の先端的な科学技術シーズの技術移転などに限られているわけではなく、例えば、高知大学のコーディネーターは、県の実情を受けて、地域で開発された健康自然食品・清酒・紙製品などの輸出促進のため、南カリフォルニア地区でのマーケティング調査・活動を行った実績があります。また、三重大学のコーディネーターは、教育学部体育系教員と観光サービス業との連携の調整役となって、郷土食を活かしたウォーキングトレイルの開発と実施の支援を行いました。詳しくは、文部科学省産学官連携コーディネーターサイト(<http://www.sangakukanren-ed.go.jp/>)に掲載されている「CD失敗・成功事例集」をご覧ください。

さて、私も地域の知の拠点再生担当であり、連携自治体は北海道です。また、近年複数大学配置が多くなっており、私も複数の大学に配置され、札幌医科大学にもオフィスをいただいております。現在は、道央圏の複数の企業から地域資源を活かした機能性食品の製品開発の相談や、ものづくり・IT企業の医療産業進出などの支援を行っています。いつも頭を悩ますのは、技術は素晴らしいのですが、出口戦略の検討が不十分と思えるケースが多いということです。

もし、新しい技術で新事業をお考えでしたら、是非ご連絡ください。CBCのビジネス相談とでもにご利用いただくと、より効果的に技術開発の方向性を検討することができると考えております。



## 『小樽市の情報をまとめて発信する 「小樽市API」を作いませんか?』

国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センター 情報資料部主任  
商学部社会情報学科 准教授

木村 泰 知

近年、ブログを書く人が増えており、総務省情報通信政策研究所の2008年7月の発表では、その開設数は1,690万件を超えているといわれています。ブログの利点としては、簡単に開設することが可能で、日記の投稿も携帯電話からのメール送信と同様の方法で行えるなどの手軽さがあります。

その中でも、ブログの良いところは、情報をコンピュータが扱いやすい表現にしているところだと思います。みなさんは、ブログサイトで「RSS」や「XML」などの記述を見たことはないでしょうか。「RSS」は、「投稿時間」、「タイトル」、「本文」、「ブログが書かれている場所」などが区別されています。情報が区別されていると、「タイトル」だけの表示や「投稿時間」の取得が容易に行えるのです。

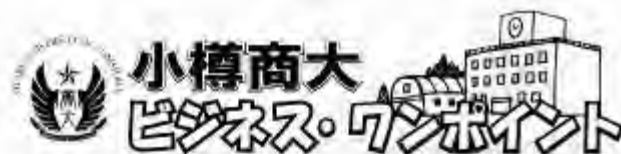
このように情報を整理するしくみが考えられている一方で、ウェブ上には膨大な情報が存在するために、自分の探したい情報を見つけたり、自分が提供したい情報を見つけてもらったり、することが難しい状態になっています。たとえば、「小樽」というキーワードをYahoo!やGoogleなどで検索しても、上位に表示されなければ見られません。そのような状況を利用して、上位にランキングされるページには広告が掲載され、商売も成り立っていますが、小樽市全体のことを考えれば、小樽市の情報を「小樽に興味を持った数多くの人」に提供できれば良いので、もう少し小樽市一丸となった取り組みをした方が良いと思っています。ただ、小樽市は高齢化が進み、ウェブの情報を扱うことが苦手な人も多く存在します。

そこで、その解決方法として、小樽市の住民しかできないことと小樽市の住民以外でもできることを切り分けて、小樽市住民だから持っている情報をまとめて、技術を持っている人に渡し、あとの情報提供は他の人に任せるのが良

いと思っています。

これを実現できるのがAPIだと考えています。APIとは、キーワードなどの情報を入力すれば、必要な情報だけを手に入れることができるしくみです。APIは一般の情報検索とは異なり、ブログの「投稿時間」や「タイトル」のように必要な情報だけを取得できます。公開されているAPIには、hatpepperの店名検索、楽天トラベルの旅行情報検索など数多く提供されています。そして、これらのAPIから取得した情報を組み合わせ、公開している人がいます。さらに、これらのAPIを組み合わせたアイデアを競うMushup Awardというコンテストまで開催されています。

つまり、小樽市としては小樽に関する情報をAPIとして提供し、その情報を利用できる人に任せ、面白い組み合わせや有益な情報へ変えてもらうのが良いと思っています。小樽市の情報をまとめておけば、それを組み合わせて小樽の宣伝をしてくれる人がいるのです。今までは、「情報を提供できる人」、「情報をまとめる人」、「サイトをデザインする人」が一体となっていなければ、ウェブ上に公開することができず、多くの人に見てもらうこともできませんでした。その問題を解決するために、作業を切り分けて、小樽市としては情報を提供するだけで、「提供した情報は自由に利用して下さい」というスタンスであれば、勝手にその情報を組み合わせる人ができます。そのような方法は、先ほど例に挙げた、リクルートや楽天などの企業が実際に行っており、数多くのAPIが提供されています。しかし、市町村や地方自治体としてそのようなAPIを公開しているところは、存在していないようです。そこで、小樽市が初めての市町村APIを作ってみるのも面白いと思っています。できれば、小樽市役所が中心となり、小樽市APIを提供すると、面白いことになると思っていますのが、どうでしょうか。



## 「チャレンジ国際取引」

国立大学法人小樽商科大学ビジネススクール教授  
ビジネス創造センター総務部スタッフ

中村 秀雄

部品代は「訴訟を起こされるまで払わなくていい」と現地の経理担当者が言うのを聞いて、若い頃、シンガポールの現地法人に赴任した日本製鋼所会長の永田昌久氏は、飛び上がるほどびっくりした（8月3日、日経新聞「私の課長時代」）。

## 「異常識」の世界

これは「非常識」だろうか。私は単なる「異常識」に過ぎないと感じた。つまり広い世界のどこにでもある価値観、文化の違いである。

## 北海道の国際取引

2001年に会社を辞めて本学に赴任して以来、8年以上にわたって大学で国際取引法を教えるほか、北海道国際ビジネスセンターの「貿易コンサルタント」や、小樽市内の企業も含めて、道内企業のアドバイザー等を勤めてきた。この中で感じることの1つに、折角国際取引をやる気があるのに、どうそれを進めればよいのかが分からずに、結局何もしなくなってしまう企業が少なくないということである。たまたま実現することになっても、実務は本州の商社に任せてしまっ、結局リスクも取らないが、利益も少ない、ということになってしまうケースもある。

## 国際取引だからといって特別扱いはない

国際取引だから特別だと思ふ必要はない。こんな相談があった。ある小規模な会社が、はじめての外国のお客から、支払いは前金と信用状（銀行が払う）という条件で、貸入りのお菓子（上代200円余り）、30何万袋の注文を受けた。これにどう対応したらよいか、というのである。国内の聞いたことのない業者から、同じような注文を受けたら、こんな大量の注文をして売れる力があるのか？とまず疑うだろう。国際取引だって同じことだ。案の定この会社は、こんな注文をたくさん日本の業者に送りつけている。札付きの会社だと後で判った。健全な商売の感覚が、国際取引でも同じように役立つことを忘れてはならない。

## 対等な立場で

国際取引は初めてだからということも聞く。国内だって最初は未知の領域ではないか。英語や、中国語、韓国語が分からないから、という話もあるが、これはどうだろう。国際取引だからといって、相手に合わせる必要は全くないのだ。自分が理解できない言葉で取引するのは、理屈に合わない。よく「国際契約書は英語で書かなければならないか？」という質問を受ける。「双方が納得する言語でよい。日本語を主張しても一向構わない」と答えている。大事なことは相手と対等の立場で取引をするという精神である。立場の違いはあっても、上下の区別はない。決済方法も円建て。円払いで全く構わない。商品を相手のところに取りに行っても、こちらに持ってきてもらっても、構わない。何も遠慮することはない。お互いに「異常識」の当事者同士ではあっても、どちらかの言い分が尊重されるべきだという「国際的」ルールはない。条件を提示し、交渉して話が合えば取引したらよいのだ。

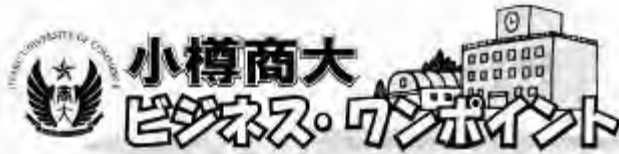
## 思ってもみない発想

とはいえ国際取引をするなら、進取の気象、発想の転換も必要だろう。「チャンスには前髪しかない」という諺がある。良いと思ったら、すかさず綱めということだ。しかしこれを額面通りに取って、掴み損なったらあきらめていたのでは、いつまでたっても前に進まない。発想の転換が必要だ。どうすればよいのか？チャンスに発毛剤を売り込んで、後ろ髪を育てればよい！

## 未来に向かって

14万人近くの間人がいたら、世界の大抵の国では立派な中堅都市だ。ここが世界の中心（の1つ）であるぐらいの気概を持って、国際取引に乗り出そうとする人がいれば、いつでも本学の知見を結集して、応援するのでC B Cに声をかけて頂きたい。やまず大学自身が、商大グッズで世界に打って出るべきか？





## 小樽市のポジショニングとリソース —経営戦略論からの示唆

国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センター

研究部スタッフ  
商学部商学科 准教授

加賀田 和 弘

### 1. 経営戦略とは何か

経営学に経営戦略論という研究領域がある。E. M. テイラー (1856-1915) の「科学的管理法」を嚆矢とする経営学100年の歴史の中でも、比較的新しい領域であり、その議論が本格的に登場するのは1960年代の米国においてである。「戦略」とは、もともと「軍事戦略」を意味する軍事用語であり、その定義を簡単に述べるならば「戦争に勝つための戦い方の原理・原則」を意味する。この軍事用語としての「戦略」が企業経営に導入された背景には、第2次世界大戦後のアメリカ産業が直面した産業の成熟化に伴う飽和市場、技術進歩の伸び悩み、グローバル経済競争、企業規模の拡大と肥大化等が挙げられる。このような課題に対応するための新しい経営手法として「戦略」概念が経営学に導入され始めたのである。この概念を最初に経営学領域に取り入れたA. D. チャンドラー<sup>1)</sup>は経営戦略を「企業の基本的長期目標と目的の決定、その遂行に当たって取るべき行動方向の採択および必要な諸資源の配分」と定義した。その後、経営戦略論研究では、持続的競争優位（競争上の優位性を持続的に確保している状態）の源泉はどこにあるのかという点について、企業の外部環境におけるポジショニング（その業界・市場における自社あるいは自社製品の位置付け）に求めるアプローチと、企業の内部環境におけるリソース（いわゆる経営資源）に求めるアプローチの2つがその大枠の概念として提示された。また両者に共通して、自社の製品やサービス、あるいは経営資源そのものの独自性を創造していくことで競争優位の構築を目指す「差別化」戦略の重要性が指摘された。同時に、企業内部の「強み (Strengths)」、弱み (Weaknesses)、外部環境に潜む「脅威 (Threats)」、「機会 (Opportunities)」を分析するためのSWOT分析、自社の持つ経営資源の経

済価値 (Value)、希少性 (Rarity)、模倣困難性 (Inimitability)、組織特性 (Organization) を分析するVRIO分析など、経営戦略を策定・分析・評価するための手法の開発も行われてきた。

### 2. 小樽市の戦略

さて、やや前置きが長くなってしまったが、以上のような経営戦略に関する理論的なフレームワークや考え方は、必ずしも企業にのみ適用可能なものではなく、今後の小樽市の「戦略」を考える上でも有益な視点を提供してくれるのではないだろうか。先に述べたチャンドラー<sup>1)</sup>の定義に基づくならば、まず、小樽市の長期的な目標・目的をどのように設定するかという問題がある。これについては、すでに小樽市の基幹産業が観光であることや、小樽市が小樽観光都市宣言を高らかに謳い上げていることから、小樽市は観光都市として長期維持発展を目指していくという目標・目的を設定できよう。仮にそのように設定したならば、ポジショニングとしては、明治・大正・昭和初期の歴史や各種の建造物を背景とした「レトロ」観光・文化都市や、海と山に面し、四季の変化に富んだ豊かな自然を背景とした自然景観都市などがその取るべき行動方向の採択であるといえよう。そしてリソースは、小樽市の歴史やそれを今に伝える建造物、豊かな自然、美味しい海産物などが挙げられるが、これについては、まだまだあまり知られていない、あるいは、戦略と有機的に結びついていない経営資源・観光資源が多くあるはずである。これらの活用に加えて、道内の他の観光都市との「差別化」をどう図っていくか、ポジションやリソースの「模倣困難性」はどの程度か等を考慮し、観光客にアピールできる競争優位性や独自性を構築していくという視点も今後の小樽市の発展を考える上で重要であるといえよう。





## サービス業での原価計算の可能性

同志大学法人小樽商科大学ビジネススクール准教授  
ビジネス創造センター 研究部スタッフ

堺 昌彦

### 1. はじめに

昨今の道内の経済状況は非常に厳しいものがある。このような中で企業に求められているのは、経費を削減することと同時に、新たな収益源を開拓することであろう。しかし、これを闇雲に行うことは、本来企業にとって必要な経費の削減や、採算をとることがほぼ不可能な無謀な新規投資に繋がってしまう危険性がある。原価計算は、このような危険性に対処するのに非常に有効な手法である。本稿では、道内においても比較的に多いサービス業について、原価計算の有効な適用について紹介したい。

### 2. 原価計算の機能

原価計算というと、通常、製造業での製品の原価を計算するものと理解されることが多い。これは一面では正しく、今日一般に用いられている原価計算は、製造業を中心に発展してきたものであり、製品原価の算定をその機能の1つとしている。だが、原価計算の本来の機能は、モノである製品の原価を計算するだけではない。原価計算は、厳しい競争環境のもとで、企業の限られた資源を、効果的かつ効率的に活用するための情報を提供することを目指して発展してきた。企業の資源の投入と利用の実態を可視化することによって、合理的な意思決定をサポートすることこそが原価計算の本来的な機能といえる。このような観点からすると、原価計算は、製造業だけに限定されず、サービス業においても十分にその機能を果たせるものといえよう。以降では、サービス業との親和性の高いABC（活動基準原価計算）とよばれる原価計算手法の考え方と、そのサービス業への適用の可能性について概説する。

### 3. サービス業におけるABC

ABCは、製品の原価をより正確に計算するために工夫された原価計算手法である。ABCでは、まず、企業内で行われている活動を識別する。この識別した活動に焦点をあて、資源の投

入を活動ごとに集計する。そして目的に応じて設定された対象に、これら活動をさらに集計することで、企業が行っていることを可視化するのである。

このように、ABCは、活動に焦点をあてた計算構造をとっているため、サービス業との親和性が高い。それではサービス業にABCを適用することによって、どのようなことができるのだろうか。本稿では、ABCの代表的な用途である顧客の収益性の測定について紹介する。

サービス業で合理的な経営管理活動を行うにあたっての大きな問題は、製造業での「製品」にあたるサービス業での「サービス」の定義が困難なところである。顧客に対して何を販売しているのかを一律に定義することが困難なのである。しかし反面で、このような特性は、サービス業では、顧客に提供する価値を企業が柔軟に決定できるということを意味している。そして、ABCは、このようなサービス業の特性を維持したまま、アウトプットの収益性を測定することが可能なのである。

ABCは、資源の投入を活動に集計し、その後、目的に応じてそれらの活動を何らかの対象に集計する。ここで、顧客に企業内の活動を集計するというのがABCの有効な活用法の1つである。サービス業では、多様なニーズに応えるために、顧客ごとに、さまざまな活動を組み合わせ提供している。ここで、ABCで、資源→活動→顧客という集計を行うことによって、どの顧客に対してどのような活動を提供し、そのためにどれだけの資源が投入されたのかを可視化することができる。この情報と、顧客が企業に支払っている対価の情報を対照することで、企業の収益構造が明らかになる。

企業の合理的な意思決定は、収益構造の理解があってはじめて可能になるものである。今日のような厳しい競争環境下にあっては、企業が行っていることを可視化する適切な原価計算の導入は極めて重要であろう。



## 産学官の連携で小樽を元気に！

国立大学法人小樽商科大学 ビジネス創造センター長 教授 海老名 誠

本欄は平成20年7月に始まり、これまで15名の教職員が書かせていただきました。今回一巡して私の当番になり、改めてそれらを読み返し、この小さな大学にも色々な専門性を持った先生がいます。本欄に登場したのはビジネス創造センター（CBC）のスタッフ教職員だけです。CBCには「ビジネス相談」という制度がありますが、大学全体ではもっと多くの先生がおりますので、何事によらずお気軽にご相談ければ、きっと皆様のお役に立てる事と思います。

さて私は「産学官連携」の具体的な事例をご報告したいと思います。「産」は小樽商工会議所会員など企業の皆様（産業界）です。「学」は小樽商大です。「官」は小樽市役所など公的機関（官界）です。商大が産業界、官界の皆さんと連携している事例は沢山ありますが、今回は「中国およびロシアでの市場調査事業実行委員会」をご紹介します。

この委員会は2008年の秋に発足しました。事務局は小樽市産業港湾部産業振興課におかれています。目的は中国、ロシアでの市場調査を通じて地場産品の販路拡大および小樽港の振興を図ることです。私が委員長で、銀行の中国経験者や中国・ロシアと商売をしている企業の方など12名の委員で構成されています。委員には、小樽の「東アジア経済研究会」メンバーも入っています。この委員会では、これまでロシアに一回、中国に二回の調査団を派遣しました。

今年1月には小樽市、小樽商工会議所、上記委員会などのメンバーで「中国（上海）市場調査及び観光客誘致促進訪問団」が組成され、小樽から25名が上海を訪問して来ました。この団には山田小樽市長や鎌田小樽商工会議所会頭など小樽のVIPも加わり、上海と言う巨大な市場の調査と小樽への観光客誘致の二班に分かれて活動しました。今回は、上海に昨年夏オープン

した日本食料品専門のプラザで小樽フェアが開催されましたので、その視察も調査目的の一つでした。このプラザは、平成14年から小樽と上海を結ぶ定期コンテナ航路を持つ神原汽船の関係会社が経営しており、現時点では上海で一番規模の大きい日本食料品販売プラザです。上海の高級住宅地に位置するこのプラザは、開店後日も浅い事もあり来店客は未だ少ない様ですが、贈答用の青森産リンゴや高級な日本酒などが日本の何倍もの価格で売られていました。

団の市場調査班は、北洋銀行、北陸銀行、JETRO等の現地事務所でお話を伺いました。現地の事務所長などからは、経済成長を続ける上海および中国主要都市の商機が大きい事と同時に、日系企業が認識しなければいけない課題も多い事が共通に示されました。例えば、上海は中国で一番豊かな都市で、一人当たりGDPも10,000米ドルを超えており、共稼ぎが多い事を勘案すると、日本に迫る購買力を持つこと。日本人駐在員も今や世界で一番多く、香港・台湾・欧米からの駐在員を加えると、中国人富裕層と合わせ100万人超の巨大な購買市場が出現していること。しかしながら、日本からの生鮮食料品輸入には厳格な規制があり、りんご・なし・一部の米以外は輸入出来ないこと。従って、冷凍加工などの加工食料品の可能性が高いが、上海の通関など輸入手続きなどに時間がかかり、加えて保冷倉庫、保税倉庫などの設備に問題なしとしないことなどです。

この様に、新規の市場を開拓するには多くの課題を乗り越えて進まなければなりません。商大も参加している「東アジア経済研究会」でも、これまで台湾と香港で商談会を行いました。その成果もあり、小樽の産品も徐々にアジアの国々で知られて来ました。これからも「産学官」で連携して、小樽を元気にしましょう！

#### IV-4. 学外委員等

##### 各種委員会・審議会

(氏名五十音順)

| 氏 名            | 主 催                 | 名 称                                | 役 職       | 期 間                         |
|----------------|---------------------|------------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 相内 俊一          | 北海道                 | 北海道労働審議会                           | 委員        | H19. 04. 09-<br>H21. 04. 08 |
|                | 余市町                 | 余市町政治倫理審査会                         | 委員        | H21. 04. 01-<br>H23. 03. 31 |
|                | (独) 大学評価・学位授与機構     | 独立行政法人大学評価・学位授与機構<br>国立大学教育研究評価委員会 | 専門委員      | H20. 02. 01-<br>H21. 06. 30 |
| 穴沢 眞           | 北海道生産性本部            |                                    | 理事        | H14. 07. 01-<br>H22. 05. 31 |
|                | 広島市立大学              | 博士学位論文審査委員会                        |           | H22. 02. 12-<br>H22. 03. 04 |
| 石黒 匡人          | 小樽市                 | 小樽市ラブホテル建築規制審査会                    | 委員        | H21. 04. 01-<br>H24. 03. 31 |
|                | 小樽市                 | 小樽市自治基本条例懇話会                       | 委員        | H22. 01. 12-                |
|                | 余市町                 | 余市町情報公開審査会委員／余市町<br>個人情報保護審査会      | 委員        | H14. 06. 01-<br>H20. 07. 11 |
|                | 小樽商科大学生活協同組合        |                                    | 理事長及び代表理事 | H21. 05. 28-<br>H22. 05. 28 |
| 石崎 香理          | 北海道                 | 北海道国土利用計画審議会                       | 委員        | H20. 02. 01-<br>H23. 01. 31 |
| 伊藤 一           | 北海道公立大学法人<br>札幌医科大学 | 札幌医科大学附属病院患者サービス<br>向上委員会          | 委員        | H21. 08. 19-<br>H23. 03. 31 |
| 今本 啓介          | 北海道                 | 北海道大規模小売店舗立地審議会                    | 特別委員      | H20. 06. 01-<br>H21. 05. 31 |
| 江口 修           | 伊藤組100年記念基金         | 伊藤組100年記念基金                        | 評議員       | H19. 05. 18-<br>H21. 05. 17 |
| 海老名 誠<br>(つづく) | 北海道経済産業局            | 提案公募型技術開発事業外部審査委員会                 | 委員長       | H21. 06. 03-<br>H23. 03. 31 |
|                | 北海道経済産業局            | 北海道MOTコンソーシアム(推進協議会)               | 委員        | H21. 10. 22-<br>H22. 03. 31 |
|                | 北海道                 | 北海道科学技術審議会                         | 委員        | H20. 12. 01-<br>H22. 11. 30 |
|                | 北海道                 | 北海道労働審議会職業能力開発部会                   | 特別委員      | H22. 01. 21-<br>H24. 01. 20 |
|                | 北海道                 | 地域新ビジネス創出モデル事業審査委員会                | 委員長       | H21. 07. 27-<br>H23. 03. 31 |
|                | 小樽市                 | 中国及びロシアにおける市場調査事業等実行委員会            | 委員長       | H21. 10. 16-<br>H22. 03. 31 |
|                | 小樽市                 | 小樽がらす市実行委員会                        | 委員        | H21. 06. 08-                |
|                | 小樽市観光大学校            | 運営委員会                              | 運営委員      | H18. 05-                    |
|                | (財)北海道科学技術総合振興センター  |                                    | 企画委員      | H19. 07. 01-<br>H23. 06. 30 |

|                |                           |                                           |            |                             |
|----------------|---------------------------|-------------------------------------------|------------|-----------------------------|
| 海老名 誠<br>(つづき) | (財) さっぽろ産業振興財団            | さっぽろ起業家総合支援協議会                            | 会長         | H21. 04. 16-<br>H22. 03. 31 |
|                | (財) 雇用・能力開発機構北海道職業能力開発大学校 | 北海道職業能力開発大学校ものづくり人材育成推進協議会                | 委員         | H20. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | 東京商工会議所                   | 東京商工会議所国際経済委員会                            | 委員         | H20. 02. 21-<br>H22. 09. 30 |
|                | 北海道新聞社                    | 読者と道新委員会                                  | 委員         | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | 北海道                       | 海外からの小口投資ビジネス研究会                          | 座長         | H21. 08. 04-<br>H22. 03. 31 |
| 大島 稔           | 北海道                       | 北海道立道民活動センター指定管理者候補者選定委員会                 | 委員         | H21. 08. 25-                |
|                | アイヌ文化振興・研究推進機構            |                                           | 理事         | H21. 04. 01-<br>H23. 03. 31 |
| 大津 晶           | 小樽市                       | 小樽市都市計画審議会                                | 委員         | H20. 04. 01-<br>H24. 03. 31 |
|                | 北海道                       | 海外からの小口投資ビジネス研究会                          | 委員         | H21. 08. 04-<br>H22. 03. 31 |
| 大矢 繁夫          | 北海道                       | 北海道建設業審議会                                 | 委員         | H22. 02. 16-H2<br>4. 02. 15 |
|                | 小樽市                       | 小樽市特別職報酬等審議会                              | 委員         | H14. 08. 15-<br>H22. 09. 09 |
|                | (独) 大学評価・学位授与機構           | 独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会            | 専門委員       | H20. 02. 01-<br>H21. 06. 30 |
|                | 北海道銀行                     | 北海道銀行六十年史編纂室                              | 顧問         | H20. 08. 01-<br>H23. 12     |
| 岡部 善平          | 北海道大学                     | 北海道大学高等教育機能開発総合センター                       | 研究員        | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | 北海道教育庁学校教育局               | 平成21年度北海道高大連携フォーラム運営委員会                   | 委員         | H21. 06. 10-<br>H22. 03. 31 |
| 荻野 富士夫         | 小樽市                       | 平成 22 年度使用小樽市中学校用教科用図書選定委員会               | 委員         | H21. 07. 08-                |
|                | 小樽市教育委員会                  | 市立小樽文学館審議会                                | 委員         | H19. 11. 01-<br>H23. 10. 31 |
|                | 小樽市教育委員会                  | 小樽市文化財審議会                                 | 委員         | H19. 11. 01-<br>H23. 10. 31 |
|                | 小樽市教育委員会                  | 小樽市博物館協議会                                 | 委員         | H20. 08. 02-<br>H22. 08. 01 |
|                | (独) 日本学術振興会               | 特別研究員等審査会及び国際事業委員会                        | 専門委員、書面審査員 | H20. 08. 01-<br>H21. 07. 31 |
| 小田 福男          | 北海道労働局                    | 北海道地方最低賃金審議会（第 43 期）                      | 公益委員       | H21. 05. 01-<br>H23. 04. 30 |
|                | 北海道労働局                    | 北海道地方最低賃金審議会                              | 委員         | H20. 05. 01-<br>H21. 04. 30 |
| 片桐 由喜<br>(つづく) | 北海道                       | 北海道立市民活動促進センター及び北海道立消費生活センター指定管理者候補者選定委員会 | 委員         | H21. 10. 16-<br>H22. 03. 31 |

|                |                   |                                                      |            |                             |
|----------------|-------------------|------------------------------------------------------|------------|-----------------------------|
| 片桐 由喜<br>(つづき) | 北海道               | 北海道消費生活審議会                                           | 委員         | H22. 03. 26-<br>H24. 03. 25 |
|                | 北海道社会保険事務局        | 市場化テスト評価委員会                                          | 委員         | H21. 07. 28-<br>H21. 12. 31 |
|                | 北海道社会保険事務局        | 北海道地方社会保険医療協議会                                       | 委員         | H20. 10. 01-<br>H22. 09. 30 |
|                | 北海道社会保険事務局        | 全国健康保険協会北海道支部評議会                                     | 評議員        | H20. 10. 01-<br>H22. 09. 30 |
|                | 中央労働委員会           |                                                      | 地方調整委員     | H20. 10. 01-<br>H22. 09. 30 |
|                | 小樽市               | 小樽市有償運送運営協議会                                         | 委員         | H21. 04. 01-<br>H23. 03. 31 |
|                | 小樽市               | 小樽市感染症の審査に関する協議会                                     | 委員         | H21. 04. 01-<br>H23. 03. 31 |
|                | 小樽市               | 小樽市男女平等参画推進市民会議                                      | 委員         | H19. 09. 09-<br>H23. 09. 08 |
| 河森 計二          | 札幌市               | 札幌市消費生活審議会                                           | 委員         | H21. 04. 28-<br>H23. 04. 27 |
|                | (社)商事法務研究会        | 商事法務研究会賞                                             | 推薦人        | H21. 06. 08-<br>H21. 07. 31 |
| 君羅 久則          | 北海道教育委員会          | 北海道・札幌市公立学校教員採用に関する協議会                               | 委員         | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
| 木村 泰知          | 小樽商科大学生活協同組合      |                                                      | 常務理事       | H21. 05. 28-<br>H22. 05. 28 |
| 小林 友彦          | (独)経済産業研究所        | 農業補助金研究会                                             | 委員         | H21. 09. 24-<br>H22. 03. 31 |
| 近藤 公彦          | 北海道経済産業局          | 地域資源活用新事業展開支援事業評価委員会                                 | 委員         | H21. 05. 11-H2<br>2. 03. 31 |
|                | 北海道経済産業局          | 北海道地域産業資源活用事業評価委員会                                   | 評価委員       | H21. 06. 08-H2<br>2. 03. 31 |
|                | 帯広畜産大学地域共同研究センター  | 平成 21 年度「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成」事業化推進タスクフォース           | 構成員        | H21. 04. 01-H2<br>2. 03. 31 |
|                | 帯広畜産大学地域共同研究センター  | 平成 21 年度「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成」人材育成事業事務局（カリキュラム作成チーム） | 構成員        | H21. 04. 01-H2<br>2. 03. 31 |
| 齋藤 一郎          | 北海道財務局            |                                                      | 金融行政アドバイザー | H21. 04. 01-<br>H23. 03. 31 |
|                | 北海道               | 北海道商工業振興審議会                                          | 委員         | H19. 10. 11-<br>H21. 10. 10 |
|                | 千歳市               | 千歳市公営企業経営審議会                                         | 委員         | H22. 02. 12-                |
|                | 札幌信用金庫            | (株)さっしん地域経済金融センター                                    | 提携アドバイザー   | H20. 08. 14-<br>H21. 08     |
|                | 北海道石油業協同組合連合会     | S S 過疎地調査実施委員会                                       | 委員         | H21. 10. 08-<br>H22. 02. 26 |
| 才原 慶道          | 北海道大学情報法政策学研究センター |                                                      | 研究員        | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |

|                |                       |                             |              |                             |
|----------------|-----------------------|-----------------------------|--------------|-----------------------------|
| 堺 昌彦           | 小樽商科大学生活協同組合          |                             | 理事           | H21. 05. 28-<br>H22. 05. 28 |
| 佐藤 剛           | 北海道大学情報基盤センター         | 北海道大学情報基盤センター大型計算機システムプログラム | 指導員          | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
| 柴山千里           | 小樽市                   | 小樽市ふるさとまちづくり協働事業審査委員会       | 委員           | H21. 06. 01-<br>H23. 03. 31 |
| 瀬戸 篤           | 経済産業省                 | 地域技術開発事業に係る事前評価委員会          | 委員           | H20. 03. 24-<br>H21. 08. 31 |
|                | 東海大学                  | 東海大学生物理工学部                  | 客員教授         | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | (株)アグリバイオインダストリ       | 最高経営アドバイザー（経営戦略担当）          | アドバイザー       | H21. 05. 11-<br>H22. 03. 31 |
|                | (株)ヒューマン・キャピタルマネジメント  | HCM産学官イノベーション研究会            | 講師           | H19. 04. 26-<br>H21. 04. 25 |
|                | 東京読書会                 |                             | アカデミックアドバイザー | H20. 01. 09-<br>H22. 01. 08 |
|                | (独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 |                             | NEDO技術委員     | H20. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
| 多木 誠一郎         | 余市町                   | 余市町情報公開審査会及び余市町個人情報保護審査会    | 委員           | H20. 04. 01-<br>H23. 03. 31 |
|                | 全国農業協同組合中央会           | 農業協同組合内部監査士検定               | 試験委員         | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | 全国農業協同組合中央会           | 平成21年度全国JA職員資格認証試験          | 問題作成委員       | H21. 04. 21-<br>H22. 03. 31 |
|                | (社)日本共済協会             | 共済理論研究会                     | 委員           | H21. 04. 01-<br>H23. 03. 31 |
| 田野 有一          | 北海道トランポリン協会           |                             | 副会長          | H21. 04. 01-<br>H23. 03. 31 |
|                | (財)北海道体育協会            | 競技力向上委員会                    | 委員           | H19. 06. 22-<br>H21. 06. 21 |
|                | 小樽市教育委員会              | 小樽市スポーツ振興審議会                | 委員           | H20. 07. 18-<br>H22. 07. 17 |
| 玉井 健一          | 小樽商科大学生活協同組合          |                             | 理事           | H21. 05. 28-<br>H22. 05. 28 |
| 中川 喜直          | 北海道大学高等教育機能開発総合センター   |                             | 研究員          | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | (財)北海道健康づくり財団         | すこやかロード認定委員会                | 委員           | H20. 05. 12-<br>H22. 03. 31 |
| 中浜 隆           | 大学生協同組合連合会北海道事業連合     |                             | 監事           | H21. 05. 22-<br>H22. 05. 21 |
| 中村 隆志          | (医) 恵佑会札幌病院           | 治験審査委員会                     | 委員           | H20. 07. 12-<br>H22. 07. 11 |
| 中村 秀雄<br>(つづく) | 北海道国際ビジネスセンター         |                             | 貿易コンサルタント    | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |

|                |                  |                           |            |                             |
|----------------|------------------|---------------------------|------------|-----------------------------|
| 中村 秀雄<br>(つづき) | 小樽商科大学生活協同組合     |                           | 常務理事       | H21. 05. 28-<br>H22. 05. 28 |
|                | (社)北海道貿易物産振興会    | あり方検討委員会                  | 委員         | H21. 05. 27-                |
| 簗本 智之          | 北海道              | 北海道地方独立行政法人評価委員会          | 委員         | H21. 04. 01-                |
| 花輪 啓一          | 小樽市              | 小樽市特定施設入居者生活介護に係る事業者選考委員会 | 委員長        | H21. 06. 05-<br>H23. 03. 31 |
|                | 小樽市              | 小樽市地域密着型サービス運営委員会         | 委員長        | H21.5.1~<br>H24.4.30        |
|                | 小樽市              | 小樽市高齢者保健福祉計画等策定委員会        | 委員長        | H20. 04. 01-<br>H24. 03. 31 |
| 平沢 尚毅          | 製造業              |                           | 技術指導       | H20. 05. 01-<br>H21. 04. 30 |
|                | (特)札幌ITフロント      |                           | 理事         | H20. 07. 01-<br>H21. 06. 30 |
|                | 総務省行政管理局         | 北海道電子政府推進員協議会             | 会長         | H21. 07. 07-<br>H23. 06. 30 |
|                | 製造業              |                           | 技術指導       | H21. 06. 16-<br>H22. 03. 31 |
|                | (株)U'eyes Design |                           | 技術指導       | H21. 11. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | 札幌市              |                           | 技術指導       | H21. 12. 11-<br>H22. 03. 31 |
|                | 札幌市政策マーケティング研究会  |                           | 技術指導       | H22. 01. 28-<br>H22. 03. 31 |
|                | アライドブレインズ(株)     |                           | 技術指導       | H22. 02. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | 人間工学学会           | ISO/TC159 /SC4/WG6 国内委員会  | 委員         | H20. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
| 船津 秀樹          | (独)日本学術振興会       | 特別研究員等審査会及び国際事業委員会        | 専門委員、書面審査員 | H21. 08. 01-<br>H22. 07. 31 |
|                | 広島大学             | 広島大学留学生センター               | 客員研究員      | H20. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
| 裴 崢            | 北海道              | 北海道地域限定通訳案内士              | 試験委員       | H21. 11. 19-<br>H22. 03. 31 |
| 寶福 則子          | 小樽市              | 小樽市青少年問題協議会               | 委員         | H21. 11. 01-<br>H23. 10. 31 |
| 前田 東岐          | 北海道              | 北海道地価調査委員会                | 委員         | H19. 10. 01-<br>H21. 09. 30 |
|                | 北海道              | 北海道政策評価委員会                | 委員         | H20. 05. 30-<br>H22. 05. 29 |
| 前田 陽           | 小樽商科大学生活協同組合     |                           | 監事         | H21. 05. 28-<br>H22. 05. 28 |
| 八木 宏樹<br>(つづく) | (財)北海道環境財団       |                           | 評議員        | H21. 06. 01-<br>H23. 05. 31 |
|                | 後志支庁             | 小樽土木現業所総合評価審査委員会          | 代表委員       | H21. 05. 11-<br>H23. 03. 31 |

|                |                      |                                                  |      |                             |
|----------------|----------------------|--------------------------------------------------|------|-----------------------------|
| 八木 宏樹<br>(つづき) | 北海道経済産業局             | 北海道農商工等連携事業・農商工等連携支援事業評価委員会及び農商工等連携対策支援補助事業評価委員会 | 評価委員 | H21. 05. 28-<br>H22. 03. 31 |
|                | 北海道後志支庁              | 後志支庁(後志森づくりセンター)総合評価審査委員会                        | 委員   | H21. 06. 12-<br>H23. 03. 31 |
| 山田 菊子          | (社) 土木学会             | 教育企画・人材育成委員会 男女共同参画小委員会                          | 幹事   | H20. 06. 01-<br>H22. 05. 31 |
|                | アライドブレインズ(株)         |                                                  | 技術指導 | H22. 02. 01-<br>H22. 03. 31 |
| 山本 眞樹夫         | 小樽開発建設部              | 小樽開発建設部入札監視委員会                                   | 委員   | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | 小樽開発建設部              | 小樽開発建設部総合評価審査委員会                                 | 委員   | H21. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | (財)北海道科学技術総合振興センター   |                                                  | 評議員  | H21. 07. 01-<br>H23. 06. 30 |
|                | (社) 国立大学協会           | 国際交流委員会                                          | 委員   | H20. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |
|                | 小樽商工会議所              |                                                  | 顧問   | H20. 04. 25-<br>H22. 10. 31 |
|                | 北海道ユネスコ連絡協議会         |                                                  | 顧問   | H20. 05. 28-<br>H22. 05     |
|                | 北海道生産性本部             |                                                  | 顧問   | H20. 05. 22-<br>H22. 05     |
|                | I D E 大学協会北海道支部      |                                                  | 理事   | H20. 07. 01-<br>H22. 06. 30 |
|                | (財)北海道科学技術総合振興センター   |                                                  | 評議員  | H20. 07. 09-<br>H21. 06. 30 |
|                | 小樽市教育委員会             | 市立小樽美術館特別展実行委員会                                  | 顧問   | H21. 05. 23-<br>H21. 07. 20 |
| 山本 充           | 北海道                  | 北海道ゼロ・エミ大賞選考委員会                                  | 委員   | H20. 08. 05-<br>H22. 08. 04 |
|                | 北海道                  | 北海道海岸浸食対策検討会                                     | 委員   | H21. 12. 02-<br>H22. 03. 31 |
|                | 北海道                  | 北海道グリーン・ビズ認定制度検討委員会                              | 委員   | H21. 05. 11-<br>H22. 03. 31 |
|                | 一般社団法人観光と地域づくり推進研究機構 |                                                  | 理事   | H21. 10. 23-<br>H23. 06. 30 |
| 李 濟民           | 小樽市                  | 小樽市地方港湾審議会                                       | 委員   | H19. 08. 01-<br>H23. 07. 31 |
|                | 神戸大学                 | 神戸大学大学院経営学研究科外部評価委員会                             | 委員   | H21. 01. 01-<br>H22. 03. 31 |
| 和田 健夫          | (独) 大学評価・学位授与機構      | 独立行政法人大学評価・学位授与機構<br>国立大学教育研究評価委員会               | 専門委員 | H20. 02. 01-<br>H21. 06. 30 |
| 渡辺 和夫          | 小樽市                  | 上下水道事業経営懇話会                                      | 委員   | H20. 04. 01-<br>H22. 03. 31 |



## V. 小樽商科大学学術研究奨励事業

### 第4回「学生論文賞」

総 評

学生論文賞実施委員会  
委員長 近藤公彦

「学生論文賞」として4回目となる今年度は、学部生部門に44編、大学院生部門に2編、計46編の応募がありました。この応募数は昨年度に比べてほぼ倍増し、学生の皆さんの研究成果の発表の場として、本論文賞が定着してきたことを示しています。学部学生の部では、専門ゼミで学ぶ4年生が卒業論文の研究を兼ねて応募するケースが多くを占めますが、今年度の特徴としては、2・3年生からの応募が少なからずあったことが挙げられます。所属学科等では商学科と社会情報学科が多く、今後、学科の広がり期待したいところです。また大学院生の部では、アントレプレナーシップ専攻（ビジネススクール）の社会人学生の論文が寄せられました。

審査は、プレゼンテーションによる第1次審査と論文審査による第2次審査の2段階で行われます。第1次審査の発表数は43編（学部学生41編、大学院生2編）で、延べ360名の教員が審査に当たりました。このうち辞退者を除く30編が第1次審査を通過し、第2次審査に進みました。大学院生の部からは、残念ながら通過がありませんでした。第2次審査では、延べ54人の教員が論文の評価を行いました。こうした厳正なる2段階審査の結果、大賞となるヘルメス賞1編、優秀賞4編、奨励賞19編が選ばれました。このうち優秀賞1編は、第1次審査のプレゼンテーションで最高点を獲得した論文に授与されるベスト・プレゼン賞とのダブル受賞となりました。なお、実施委員会において特徴的な評価を得た論文に対して与えられる特別賞は今年度、該当する論文がありませんでした。

プレゼンテーションによる第1次審査では、限られた時間のなかでいかに効率的・効果的に論文の内容を伝えるかが重要となります。また第2次審査では、論文形式・アプローチ・方法論、テーマ設定、論理構成、独創性の点からより厳密に論文の「質」が評価されますので、十分な推敲が必要です。ヘルメス賞、優秀賞の上位入賞論文は、第1次審査、第2次審査をとおして審査者から万遍なく高い評価を得ています。奨励賞受賞論文は、これらの点で一部、上位入賞に及ばなかったものです。全体としては、自身で調査や一次データの収集を行った独創的な論文であることが評価を高め、逆に、先行研究のレビュー不足や論文全体の論理構成の弱さが評価を下げる結果となっています。高いレベルの論文を目指す皆さんには、プレゼンテーション・論文執筆に当たり、論文の基本的な様式のほか、テーマのユニークさや研究アプローチを「独りよがり」ではなく客観化・相対化するため

の理論的な裏づけを十分に意識することを心掛けてください。

本論文賞では、第1次審査、第2次審査ともに審査者から論文評価のフィードバックが行われています。この評価は論文執筆や研究能力のレベル向上につながるものですので、ぜひ今後に役立てていただきたいと思います。

最後になりましたが、本論文賞の実施に当たりまして、株式会社北洋銀行様より多大なご支援を頂戴いたしました。記して感謝の意を表します。

## 小樽商科大学 学術研究奨励事業第4回「学生論文賞」結果

### ○学部学生の部

| 結 果   | タイトル                                         | 応募者                                                  |
|-------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| ヘルメス賞 | Genre Analysis of Self-introduction          | 佐藤 亜美                                                |
| 優秀賞   | i-vacsプロジェクトのマーケティング分析と今後の戦略                 | 工藤 朋美                                                |
|       | 証券化商品におけるリスク計測                               | 小鹿 智紀                                                |
|       | 女性の能力と企業業績<br>（＊ベスト・プレゼン賞）                   | 川口 枝里子<br>石山 真央<br>岡田 知佳<br>近藤 亜沙美<br>多田 未樹<br>渡邊 啓介 |
|       | ふるさと納税制度の活用に関する実証的研究                         | 永峰 由佳                                                |
|       |                                              |                                                      |
| 奨励賞   | 仮想空間におけるネット・コミュニティ・ビジネスの確立                   | 坂間 十和子                                               |
|       | 学校裏サイトの誹謗・中傷に含まれる人名・組織名の抽出に関する研究             | 古俣 優花                                                |
|       | CSR活動と企業業績の関係                                | 大竹 佑亮<br>佐々木 達識<br>佐藤 美佳<br>深井 梢                     |
|       | 対話型遺伝的アルゴリズムを用いたYOSA KOIソーラン隊列考案支援システムの有効性検証 | 高橋 一人                                                |
|       | 環境経営 ～環境対策と企業財務業績の関係～                        | 新川 諒介<br>太田 優子<br>金兵 省吾<br>佐藤 愛                      |
|       | プロサッカーにおける顧客関係管理                             | 栗城 慶介                                                |
|       | PPP手法による道路空間整備について～広告添加型のバス停留所を事例にして～        | 川内 喬太                                                |
|       | 退職後の余暇活動～北海道の都市部と郡部における分析～                   | 佐藤 由希絵                                               |

|     |                                                                |                          |
|-----|----------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 奨励賞 | 小樽市の財政からみた地方財政の問題                                              | 村上 佑輔<br>佐藤 亜希子<br>山崎 泰輔 |
|     | 大学生活におけるメタ認知能力の早期育成の実現                                         | 秋野 舞里紗                   |
|     | The evaluation of eco funds                                    | 福沢 茜                     |
|     | ニコニコ動画における、面白さ共感ポイントの発見                                        | 工藤 和寛                    |
|     | ビジネスエリアにおける企業間コミュニティと個人間コミュニティの違いについて～丸の内における地域コミュニティを研究対象として～ | 鳴海 雄大                    |
|     | ネットショッピング成功のためのマーケティング戦略                                       | 矢口 真梨子                   |
|     | 業務利用推進によるコミュニティサイクル事業の発展可能性                                    | 葛西 美樹子                   |
|     | 人材紹介会社の経営戦略～リクルートエージェントのケース分析～                                 | 福士 拓也                    |
|     | 家具業界における競争戦略 ～ニトリとイケア～                                         | 湯浅 拓也                    |
|     | 木造建築の民家が形成する小樽の歴史的な町並み保全の提案                                    | 朝長 久美子                   |
|     | 公共施設のネーミングライツビジネスに関する分析                                        | 荒井 麻梨乃                   |

## ○大学院学生の部

該当なし

副賞 ヘルメス賞 10万円      優秀賞 5万円      奨励賞 1万円  
ベスト・プレゼン賞 1万円

各論文講評（優秀賞以上）

（学部生の部）

ヘルメス賞

佐藤 亜美「Genre Analysis of Self-introduction」

本論文は、言語学の談話分析において「言語と言語外要素との影響関係を分析する」ために有効とされるジャンル分析法を適用し「日本人大学生における自己紹介」をテーマに扱った英文論文である。これまで「書き言葉」テキストを中心に行われた先行研究の精査、ジャンル分析法の解説も明快で、論理の構成と展開も手堅い。「自己紹介」という一分野の

分析にすぎないが、これまで本格的な研究の手薄な「話し言葉」の談話分析に成功している。録画した 75 の「自己紹介」データを、ゼミ、クラブ、コンパなど場面における変異を考慮した上で、発話展開の特徴、発話外要素との関係、参加者相互の関係を指標に分析し、日本人大学生の自己紹介に見られる典型(prototype)を抽出している。その自己紹介の典型には、他の文化には見られない、集団内で良好な人間関係を築きあげるための「集団への協調性」という日本人のコミュニケーションにおける特徴が確認できたことは、本論文の独自性であろう。

## 優秀賞

### 工藤 朋美「i-vacs プロジェクトのマーケティング分析と今後の戦略」

本論分は、本学のゼミナールで実際に取り組んでいるプロジェクトを客観的に整理・分析・評価したものである。在籍学生の立場で、このテーマを取り上げる事自体、勇気が必要となるが、敢えて問題提起とも言える論文を発表したことを評価する。

本プロジェクトは、札幌の「狸小路商店街」の活性化を狙い、同商店街との協同で始まった。IT 技術を用いて、閲覧者に仮想的な商店街を体験させ、そこに様々な特典を付すことにより、顧客を実際の狸小路商店街に呼び戻すことを狙っている。

論文は独自の研究成果・意見で構成されており、オリジナリティが高い。

学生のプロジェクトは、所謂「代替わり」があるため、担当の学生が交替する度に一貫性を欠く場合が多いのが普通だが、筆者は強い信念を持って本プロジェクトを推進すべきと訴えており、論理構成もしっかりしており、読み手を納得させるレベルを持つ。

### 小鹿 智紀「証券化商品におけるリスク計測」

本論文は今現在最も社会的関心度の高い経済学の課題の一つである金融危機の原因究明に取り込んでいる。論文は資産の証券化と金融市場のシステムティック・リスクに対する感応度の増大との関連性について論じた。さらに、統計学的なテクニック、コンピュータを利用してシミュレーションで証券化商品のリスク構造を再現した。

論文の前半は証券化商品の仕組みに関して説明し、金融機関は証券化商品を利用してサブプライムローンのオフバランス取引を行い、自己資本比率を保ちながら、サブプライムローンバブルを作り出したことを指摘した。さらに、ハイリスクなサブプライムローンが ABS（資産担保証券）や CDO（債務担保証券）およびそれらの複合商品 ABSCDO などの複雑な証券化商品の形で広く市場に出回り、結果として金融リスクの分散が図られてきたが、一方では金融市場のシステムティックリスクに対する感応度が高まったことを説明し

た。論文の後半は統計学的なテクニックであるコピュラを利用し、コンピュータ・シミュレーションで証券化によるシステムティック・リスクに対する感応度の高まりを再現した。

本論文は社会的関心度の高い課題に取り組んだ点と高度なシミュレーション技法を駆使した点で評価されるべき。独創性に関しては足りないところがあるが、総合的に判断すると、卒論として十分優れた論文と認める。

川口 枝里子 石山 真央 岡田 知佳 近藤 亜沙美 多田 未樹 渡邊 啓介

「女性の能力と企業業績」(優秀賞／プレゼン賞)

この論文の優れた点は何よりその明快さである。記述は、主題の紹介から始まり、論点の提示、分析手法の解説や結果の記述、政策提言へと、グラフなどの適切な援用によって、論旨が乱れることなく流れるようにすすみ、読むものを混乱させることが一切無い。

学生論文賞のいままでの審査経験から言って、このような論文はむしろ希少であった。それらの論文で時に見られるのは、自らが想定した結論に議論を無理に誘導するようなもので、前提とした結論を得るために議論に歪みが生じ、結果として不可解な印象をあたえてしまう。しかしそれは社会科学ではない。

その点、この論文は仮説を正面から検証しようと試みるが故に、分析の限界も見て取りやすい。しかしそれこそが本来の社会科学の姿である。このような明快・公正な議論を行った著者達の態度は知的・倫理的にきわめて高く評価できるもので、まさに優秀賞に値するものであると考えている。

永峰 由佳「ふるさと納税制度の活用に関する実証的研究」

ふるさと納税制度（自治体への寄付金の一部を個人住民税から税額控除する仕組み）が導入されてから約2年が経過しようとしているが、ふるさと納税制度がどれだけ活用され、どういった課題が残されているのかを検証する試みはあまり行われていない。こうした問題意識に基づき、本研究では道内30市町村を対象に地道なヒアリングを実施している。

本研究では以下の点が明らかにされている。ふるさと納税制度を利用した寄付金件数は自治体の住民数と概ね比例すると予想されるが、調査の結果、両者の間にそういった傾向はあまり見られず、特定の自治体に寄付金件数が集中していることが示された。この中には財政破綻に関する報道や観光面で全国的に知れ渡っている自治体も含まれるが、必ずしもそうとは言えない自治体にも多くの寄付が寄せられているのである。無論、ふるさと納税への取り組みは自治体によって千差万別であるが、本研究では寄付金の使途に着目し、寄付者が寄付したいと思うような事業を自治体が設定しているかが成功の鍵となっている

ことを指摘している。

上述のように，ふるさと納税制度の実態についてはまだ明らかにされていない部分も多く，本研究の独自性は高い。また，地方税のあり方，地域間格差の問題，自治体のガバナンスといった観点から考察を加えることで，多くの知見が得られる研究となるだろう。

#### 審査員一覧（五十音順 ＊印は2次審査）

|         |            |         |           |        |
|---------|------------|---------|-----------|--------|
| 相内 俊一*  | 石黒 匡人*     | 石田 三成*  | 今本 啓介     | 江頭 進*  |
| 海老名 誠*  | 大島 稔*      | 大津 晶*   | 岡部 善平*    | 奥田 和重* |
| 小田 福男*  | 乙政 佐吉*     | 加賀田 和弘* | カルヤヌ ダニエラ |        |
| 木村 泰知*  | 金 鎔基*      | 小林 友彦   | 近藤 公彦     | 齋藤 一朗* |
| 堺 昌彦*   | 佐野 博之*     | 渋谷 浩*   | 杉山 成*     | 角野 浩*  |
| 田中 幹大   | 玉井 健一*     | 辻 義人*   | 出川 淳*     | 寺坂 崇宏* |
| 渡久地 朝央* | 中村 健一*     | 中村 秀雄*  | 沼澤 政信*    | 篠本 智之* |
| 深田 秀実*  | プラート カロラス* |         | 宝福 則子*    | 前田 陽*  |
| 横村 栄美*  | 李 濟民*      | 劉 慶豊*   | 和田 健夫     |        |

第1次審査（11月17日）



表彰式 学長を囲んで（3月18日）



## VI. ビジネス創造センター活動日誌（平成21年4月1日－22年3月31日）

|                      |                                                                                                             |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月 8日（水）             | 第1回主任会議                                                                                                     |
| 4月 8日（水）             | 第1回運営会議（持ち回り） 審議事項：平成21年度科目別予算執行実績（見込）調書（第1次）について                                                           |
| 4月21日（火）             | 商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト成果報告（於：小樽市役所）                                                                      |
| 4月27日（月）             | 主任会議（持ち回り） 審議事項平成20年度予算執行実績調書（第4次）の提出について                                                                   |
| 4月28日（火）             | 第2回運営会議（持ち回り） 審議事項：平成20年度予算執行実績調書（第4次）の提出について                                                               |
| 5月21日（木）             | 第2回主任会議                                                                                                     |
| 6月                   | 『平成20年度 ビジネス創造センター研究活動報告書』発行                                                                                |
| 6月11日（木）             | 第3回主任会議                                                                                                     |
| 6月20日（土）<br>－21日（日）  | 第8回産学官連携推進会議（於：京都国際会館）大津副センター長、田中総務部主任、佐藤コーディネーター、蔵重研究協力係長参加                                                |
| 7月 1日（水）             | 第1回学生論文賞委員会                                                                                                 |
| 7月 2日（木）             | 第4回主任会議                                                                                                     |
| 7月 7日（火）             | 商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト2009中間報告会（於：小樽経済センター）                                                             |
| 7月14日（火）             | 第3回運営会議 審議事項：教員選考委員会発足に伴う選考委員の選出について                                                                        |
| 8月21日（金）             | 北洋銀行ものづくりテクノフェア2009（於：札幌コンベンションセンター）出展                                                                      |
| 8月27日（木）<br>－28日（金）  | 第22回国立大学法人地域共同研究センター専任教員会議全国大会（於：岩手県花巻市）近藤研究部主任、今野助手参加                                                      |
| 9月 1日（火）<br>－4日（金）   | 小樽商科大学シニアアカデミー2009 海老名センター長講師                                                                               |
| 9月10日（木）             | 第4回運営会議（持ち回り） 審議事項：委託事業の受入について                                                                              |
| 9月12日（土）<br>－13日（日）  | 金融問題シンポジウム・第5回三大学・地域共同研究センター定期情報交換会（於：福島県福島市）大津副センター長、齋藤一朗研究部スタッフ（コメンテーター）、佐藤コーディネーター、富樫コーディネーター、蔵重研究協力係長参加 |
| 10月 8日（木）            | 第5回主任会議                                                                                                     |
| 10月 8日（木）            | 第5回運営会議（持ち回り） 審議事項：平成21年度予算執行実績調書（第2次 上半期執行済）の提出について                                                        |
| 10月29日（木）<br>－30日（金） | 第21回国立大学法人共同研究センター長等会議（於：横浜）大津副センター長、木村情報資料部主任参加                                                            |
| 11月 1日（日）            | 商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト2009最終成果発表会（於：運河プラザ）                                                              |
| 11月 2日（月）            | 第2回学生論文賞委員会                                                                                                 |
| 11月 4日（水）            | 学生論文賞プレゼン説明会                                                                                                |
| 11月11日（水）            | 学生論文賞第1次（プレゼン）審査                                                                                            |

|                     |                                                                                |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 11月12日（木）           | 第6回主任会議                                                                        |
| 11月17日（火）           | 学生論文賞第1次（プレゼン）審査                                                               |
| 11月18日（水）           | 学生論文賞第1次（プレゼン）審査                                                               |
| 11月20日（金）           | 学生論文賞第1次（プレゼン）審査                                                               |
| 11月26日（木）           | 北海道産学官ネットワーク協議会（於：京王プラザホテル）海老名センター長出席                                          |
| 12月 1日（火）           | 寒地土木研究所 第5回 技術者交流フォーラム in 小樽（於：グランドパーク小樽）基調講演・パネリスト：海老名センター長 コーディネーター：大津副センター長 |
| 12月 7日（月）           | 学生論文賞打合せ                                                                       |
| 12月10日（木）           | 第7回主任会議                                                                        |
| 12月11日（金）           | 北海道経済活性化フォーラム（於：京王プラザホテル）海老名センター長出席                                            |
| 12月21日（月）           | 運営会議（持ち回り） 審議事項：委託事業の受入について                                                    |
| 1月13日（水）            | 主任会議（持ち回り）                                                                     |
| 1月14日（木）            | 運営会議（持ち回り） 審議事項：平成21年度科目別予算執行実績（見込）『第三次分』調書の提出について                             |
| 1月21日（木）            | 第8回主任会議                                                                        |
| 1月27日（水）            | 北海道医療産業問題研究会幹事会・セミナー（於：北海道大学）海老名センター長、佐藤コーディネーター出席                             |
| 1月28日（木）<br>－31日（日） | 中国市場調査実行委員会（於：上海）海老名センター長、富樫コーディネーター参加                                         |
| 2月 5日（金）－<br>14日（日） | ほっけ料理フェア（受託事業）（於：小樽市内各所）富樫コーディネーター担当                                           |
| 2月 5日（金）－<br>14日（日） | 雪あかりの路：商店街活性化イベント（於：小樽市商店街）大津副センター長、富樫コーディネーター参加                               |
| 2月 9日（火）            | 学生論文賞結果発表                                                                      |
| 2月10日（水）            | 運営会議 審議事項：次期ビジネス創造センター長の選出について                                                 |
| 2月15日（月）            | 第9回主任会議                                                                        |
| 2月22日（月）            | 運営会議（持ち回り） 審議事項：平成22年度年度計画について                                                 |
| 2月26日（金）            | 小樽商科大学ビジネス創造センター産学官連携研究成果報告会（於：札幌サテライト）                                        |
| 2月26日（金）            | 小樽商科大学ビジネス創造センター学外協力スタッフ会議（於：札幌サテライト）                                          |
| 3月8日（月）             | 第1回新潮流の中の道内ものづくり産業戦略懇談会（主催：北海道経済産業局 於：センチュリーロイヤルホテル）海老名センター長出席                 |
| 3月8日（月）             | 平成21年度北海道医療産業研究会第2回セミナー（於：KKRホテル札幌）海老名センター長、佐藤コーディネーター出席                       |
| 3月11日（木）            | 学生論文賞 北洋銀行への報告（於：北洋銀行本店）山本学長、大矢教育開発センター長、海老名センター長、近藤学生論文賞実地委員会委員長出席            |
| 3月16日（火）            | 北海道経済成長戦略フォーラム（主催：北海道 於：ホテルポールスター札幌）海老名センター長 第2分科会コーディネーター                     |



|          |                                                                              |
|----------|------------------------------------------------------------------------------|
| 3月18日（木） | 学生論文賞表彰式（於：学長室）                                                              |
| 3月18日（木） | 第10回主任会議                                                                     |
| 3月26日（金） | 運営会議（持ち回り） 審議事項：1. ビジネス創造センター副センター長及び主任の選出について 2. 平成22年度C B C学外協力スタッフの委嘱について |

## Ⅶ. ビジネス創造センター関連新聞・雑誌記事

平成 21 年度中に新聞・雑誌等に掲載された当センター、センター関係者、小樽商科大学の産学官連携に関連する記事の一覧です。

見出し末尾に＊のある記事は特にＣＢＣに関連のある記事として掲載可能なもののコピーを掲載しております。（印刷体のみの掲載です。インターネット上では公開しておりません）

（日付順 特に記載がない限り、新聞は小樽市域販売のもの）

| 見 出 し [ ]内は備考                                            | 紙名／誌名   | 巻号/日付 (頁)  |
|----------------------------------------------------------|---------|------------|
| 商大の『本気プロ』4 か月の成果発表：4 月から正規授業スタート                         | おたる新報   | 4. 1 (2)   |
| 小樽の魅力中国語で：産学官が案内パンフ＊                                     | 北海道新聞   | 4. 10 (25) |
| 再編引き金の可能性[齋藤研究部スタッフコメント]                                 | 毎日新聞    | 4. 12 (29) |
| 商大生の「本気プロ」市長に提案書                                         | 小樽ジャーナル | 4. 21      |
| 中心部にスケートリンク：商大「本気プロ」市に提案書＊                               | 北海道新聞   | 4. 22 (26) |
| 10 年前[ビジネス創造センター施設完成]＊                                   | 北海道新聞   | 5. 10 (29) |
| 商大生が小樽観光を本気で考える 2 年目スタート                                 | 小樽ジャーナル | 5. 14      |
| 観光の活性化策探る：「本気プロ」正規科目で初講義＊                                | 北海道新聞   | 5. 15 (29) |
| 千石涼太郎さん、神田山陽さん・・・豪華講師陣：あすから受講生募集 来月、市民大学講座開講[海老名センター長講師] | 北海道新聞   | 5. 20 (25) |
| 北海道今昔未来物語 国立大学法人小樽商科大学：地域経済活性化の拠点ビジネス創造センター（広告）＊         | 朝日新聞    | 6. 1       |
| 土産用ラベル商大生が発案：45 アイデア授業で発表[木村情報資料部主任]                     | 北海道新聞   | 6. 4 (25)  |
| 本気の夢 運河にキラリ：小樽商科大学（大学を歩く）＊                               | 読売新聞    | 6. 5 (18)  |
| 未来予想図先輩に学ぶ：樽商大新入生のキャリア教育                                 | 北海道新聞   | 6. 8 (14)  |
| 北海道再生の道探る：樽商大 創立 100 年 全学研究事業を開始＊                        | 北海道新聞   | 6. 12 (28) |
| 市民大学講座空席あり：応募前年の半分「当日券も販売」[海老名センター長講師]                   | 北海道新聞   | 6. 12 (25) |
| 小樽観光 運河クルーズで：地元企業来月から小型船運航＊                              | 北海道新聞   | 6. 26 (9)  |
| 「私たちの提案にご意見を」商大マジプロ中間発表会                                 | 小樽ジャーナル | 7. 1       |

|                                                                              |         |              |
|------------------------------------------------------------------------------|---------|--------------|
| 大学発 V B 道内で 77 社に：3 月末景気低迷で増勢鈍化                                              | 日本経済新聞  | 7. 3 (33)    |
| 文科省の事業に採択：道・函館市 水産資源の高度利用<br>知的クラスター                                         | 日本経済新聞  | 7. 4 (31)    |
| 樽商大・本気プロ「学生を小樽に住まわせるには」：簡易<br>宿泊所など提案＊                                       | 北海道新聞   | 7. 4 (29)    |
| 商大生の“本気プロ”中間発表会 提案に市民から意見                                                    | 小樽ジャーナル | 7. 7         |
| 「小樽運河クルーズ」運航開始 7/11（土）からスタート                                                 | 小樽ジャーナル | 7. 11        |
| 小樽の街並み水面から堪能：「運河クルーズ」初運航＊                                                    | 北海道新聞   | 7. 12 (26)   |
| アジアとの関係重要：小樽商大海老名さん講演：市民講<br>座＊                                              | 北海道新聞   | 7. 23（夕）(13) |
| 「舟から街を眺めてみませんか？」菊地透さん                                                        | Kazeru  | 8 月号 (6)     |
| 小樽運河クルーズ楽し：カッターボートで船旅 1 キロ                                                   | 読売新聞    | 8. 3 (30)    |
| 21 世紀の日本製造業に求められるイノベーション戦略<br>（from Innovation ' 09 Vol. 3）（広告）[瀬戸フェロー]<br>＊ | 日本経済新聞  | 8. 27 (16)   |
| 小樽の文化や伝統団塊世代興味津々：シニアアカデミー<br>始まる＊                                            | 北海道新聞   | 9. 2 (24)    |
| 受講生 17 人評判上々：「小樽の財産を再確認」市と樽商<br>大の「シニアアカデミー」                                 | 北海道新聞   | 9. 6 (27)    |
| 商大生デザイン珍味のラベルに：授業で考案 土産 6 品<br>に採用、HP で販売[木村情報資料部主任]                         | 北海道新聞   | 9. 7 (28)    |
| フェア好評輸出急増：販路拡大へ商談会参加 香港市場<br>狙う酒造業界（地域の経済 小樽）[海老名センター長委<br>員長]＊              | 北海道新聞   | 9. 16 (11)   |
| 地域活性化の方策は：樽商大で連携集中講座                                                         | 北海道新聞   | 9. 25 (29)   |
| 「裁判員」報道を議論：札幌で「読者と道新委」[海老名<br>センター長参加]＊                                      | 北海道新聞   | 9. 30 (38)   |
| 報道 予断持たずに：読者と道新委員会[海老名センター<br>長参加]                                           | 北海道新聞   | 10. 1 (7)    |
| 後志産食材 魅惑の一皿に：小樽でフードフェス 商大<br>も初参加し盛況＊                                        | 北海道新聞   | 10. 9 (26)   |
| アジアと共に生きる（提言 2009 経済成長）[海老名セン<br>ター長寄稿]＊                                     | 北海道新聞   | 10. 18 (1)   |
| アジア交流軸に地域活性化提言：道内学者ら研究機関                                                     | 北海道新聞   | 10. 22 (11)  |

|                                                                        |          |                          |
|------------------------------------------------------------------------|----------|--------------------------|
| 商大生の小樽活性化策 今年も：1日「本気（まじ）プロ」発表会＊                                        | 北海道新聞    | 10.29(25)                |
| 商大生と市民が意見交換「マジプロ 2009」成果発表会                                            | 小樽ジャーナル  | 11.1                     |
| もっと小樽知りたい：ご当地検定 1 日コース 歴史学び市内見学                                        | 北海道新聞    | 11.2(夕)(9)               |
| 対岸貿易促進へ「港同士連携を」：小樽 経営者らセミナー[海老名センター長委員長]                               | 北海道新聞    | 11.5(25)                 |
| 案内人と巡る光あふれる街：小樽「ツアー」始まる[海老名センター長運営委員]                                  | 北海道新聞    | 11.17(22)                |
| 寒地土木研究所／12月1日に小樽市で技術者交流フォーラム[海老名センター長基調講演／大津副センター長パネルディスカッションコーディネーター] | 日刊建設工業新聞 | 11.17(5)                 |
| 12月1日にフォーラム／寒地土研[海老名センター長基調講演／大津副センター長パネルディスカッションコーディネーター]             | 建設通信新聞   | 11.17(6)                 |
| 小樽の商品ネット販売：物産協会が買い物サイト開設                                               | 北海道新聞    | 11.18(26)                |
| 100周年事業など意見交換：小樽商大 市民と「一日教授会」                                          | 北海道新聞    | 11.21(32)                |
| 中国市場に後志産品を：新たな販路（点描小樽港 110 年）＊                                         | 北海道新聞    | 11.26(25)                |
| 受験者減、市民への浸透カギ「おたる案内人」検定スタート 3 年[海老名センター長運営委員]                          | 北海道新聞    | 11.27(22)                |
| 学生だからこそ提案できる斬新なアイデア（きらっ人 Voice 直撃インタビュー）[大津副センター長]                     | きらっと小樽   | Vol.25<br>2009 Winter(3) |
| 北海道／12月11日に札幌市で経済活性化フォーラム[海老名センター長パネリスト]                               | 日刊建設工業新聞 | 12.8(6)                  |
| アジアと北海道の経済を考える：小樽商大ビジネス創造センター長海老名誠さんが特別講演                              | 道新スポーツ   | 12.9                     |
| 12月11日に活性化フォーラム／北海道[海老名センター長パネリスト]                                     | 建設通信新聞   | 12.10(6)                 |
| アジアの中の北海道 発展の鍵は：来月 23 日、樽商大・海老名さん講演＊                                   | 北海道新聞    | 12.13(6)                 |
| 北海道／経済活性化フォーラム開く／今後の方向性考える[海老名センター長パネリスト]                              | 日刊建設工業新聞 | 12.15(5)                 |
| 「アジアと北海道」樽商大教授が講演：札幌で来月 23 日                                           | 北海道新聞    | 12.16(夕)(9)              |
| 3 商店街と商大生のコラボ 雪あかりイベント                                                 | 小樽ジャーナル  | 12.23                    |

|                                                    |         |            |
|----------------------------------------------------|---------|------------|
| 公共事業依存どう脱却：来月 13 日に樽商大講座[田中総務部主任講演]                | 北海道新聞   | 1. 10(6)   |
| ホッケの魅力堪能：小樽で初フェア新料理続々と（' 10 雪あかりの路）＊               | 北海道新聞   | 1. 15(24)  |
| 小樽の魚 コロケに 水産加工 2 社：商大で試験販売 学生にも好評＊                 | 北海道新聞   | 1. 19(20)  |
| 中国と貿易、観光促進へ：小樽市長ら 28 日から上海入り [海老名センター長参加]＊         | 北海道新聞   | 1. 22(23)  |
| 企業誘致へ協議会設立：岩宇 4 町村など 12 団体[田中総務部主任参加]              | 北海道新聞   | 1. 22(23)  |
| 写メで投稿イベント 商大生の雪あかりの路                               | 小樽ジャーナル | 1. 22      |
| ボールペン 商大グッズに：4 年生女子 3 人が企画 市内 5 施設で販売[中村総務部スタッフゼミ] | 北海道新聞   | 1. 26(20)  |
| 10 年前[第 1 回ビジネスアイデアコンテスト]                          | 北海道新聞   | 1. 27(20)  |
| 中小企業を元気に 29 日経営セミナー [瀬戸フェロー講演]                     | 北海道新聞   | 1. 27(21)  |
| 小樽ブランド全国へ：シーネットがネット販売＊                             | 北海道新聞   | 1. 28(24)  |
| 「ほっけ料理フェア in 雪あかり」14 軒でオリジナルメニュー                   | 小樽ジャーナル | 1. 28      |
| 海の楽しみ方紹介「小樽うみ元気 魚市」                                | 小樽ジャーナル | 1. 28      |
| 商大生、本気で盛り上げ：足湯、ライブ、借り物競走                           | 北海道新聞   | 1. 29(26)  |
| 和洋中ホッケ新メニュー＊                                       | 北海道新聞   | 2. 4(別冊 6) |
| 借り物競走やがらす市：イベント盛り沢山                                | 北海道新聞   | 2. 4(別冊 6) |
| 住民と地方議員を身近に ウェブで議事録検索[木村情報資料部主任]                   | 小樽ジャーナル | 2. 8       |
| 自慢の一枚スライドに：商大生と商店街企画 携帯で撮影の写真募集                    | 北海道新聞   | 2. 11(22)  |
| 議事録をネット検索：樽商大などシステム開発[木村情報資料部主任参加]＊                | 北海道新聞   | 2. 12(4)   |
| 政権公約報道など議論：読者と道新委[海老名センター長参加]＊                     | 北海道新聞   | 2. 17(32)  |
| 公平、冷静な視点で：読者と道新委員会[海老名センター長参加]                     | 北海道新聞   | 2. 18(14)  |
| 狸小路の常連になろう：樽商大生企画 あすから「はしご酒」[近藤研究部主任ゼミ]            | 北海道新聞   | 2. 22(30)  |
| 巨大市場に乗り込め（提言 2010 中国貿易）[海老名センター長寄稿]＊               | 北海道新聞   | 2. 28(1)   |

|                                                       |           |          |
|-------------------------------------------------------|-----------|----------|
| 中国（上海）市場調査に鎌田会頭、斎田企画・政策委員長、畠山運輸・港湾副委員長が参加[海老名センター長参加] | 小樽商工会議所会報 | 3月号(2)   |
| ものづくり戦略懇設立：道内産学官 8日初会合 新たな成長軌道に[海老名センター長参加]           | 北海道建設新聞   | 3.4(1)   |
| チアダンスで小樽応援 商大生が元気作り[木村情報資料部主任指導]                      | 小樽ジャーナル   | 3.5      |
| 狸小路での「はしご酒」盛況：小樽商大生が初企画（プラザ教育）[近藤研究部主任ゼミ]             | 北海道新聞     | 3.6(33)  |
| 道内ものづくり戦略懇が初会合：7月までに大卒[海老名センター長参加]                    | 日本経済新聞    | 3.9(35)  |
| 街でチアダンス撮影会 商大生が小樽応援 [木村情報資料部主任指導]                     | 小樽ジャーナル   | 3.9      |
| 「アジア」「エコ」照準：道内製造業 識者懇初会合 成長戦略策定へ[海老名センター長参加]          | 北海道新聞     | 3.9(11)  |
| 新たな成長軌道へ：第1回新潮流の中の道内ものづくり産業戦略懇談会 [海老名センター長参加]         | 北海道建設新聞   | 3.9(1)   |
| 小樽観光PRチア部もひと役：商大生起業のIT会社[木村情報資料部主任指導]                 | 北海道新聞     | 3.10(29) |
| 来月から連携：小樽のまちづくり団体 うみプロ 本気プロ 来年築港地区舞台に＊                | 北海道新聞     | 3.16(27) |
| 新ビジネス方策探る：「成長フォーラム」に200人[海老名センター長分科会コーディネーター]         | 北海道新聞     | 3.17(11) |
| 小樽のうみ元気未来図（広告）                                        | 北海道新聞     | 3.24(20) |